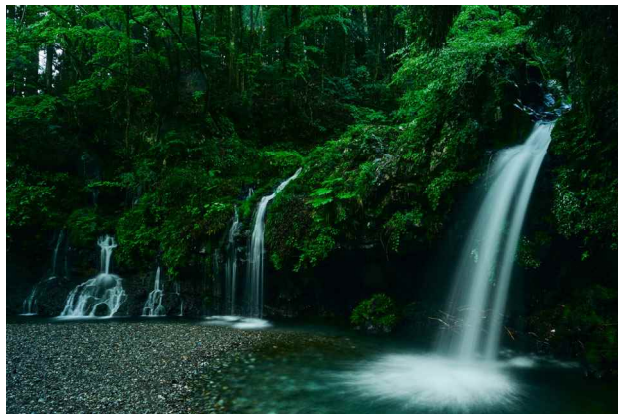
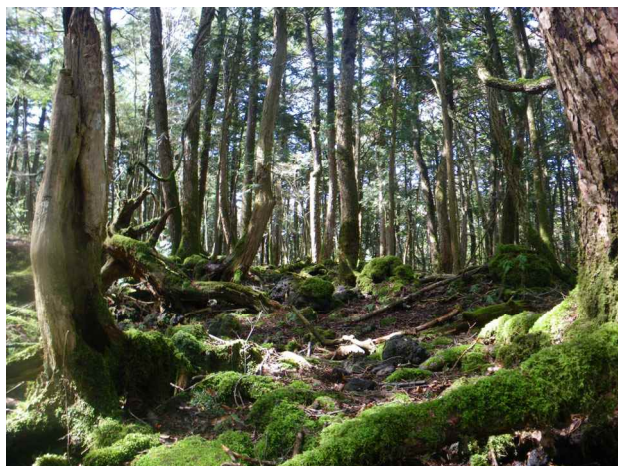


富士山麓を「歩く旅」を もっと楽しむSTORY

みんなで作くり、みんながつかう
東海自然歩道でつながる富士山麓インタープリテーション全体計画



発行：富士箱根伊豆国立公園管理事務所

version I

目次

■ はじめに	1
■ インタープリテーションとは	2
■ 富士山麓のインタープリテーション全体計画の目的	3
■ 富士山麓を「歩く旅」とは	5
■ インタープリテーション全体計画をこんな風につかってほしい	7
■ 富士山麓の重要な資源	9
■ 富士山麓を訪れるお客様に体験してほしいこと	11
■ みんなで共有したい価値 富士山麓って何がすごいの?	13
火山としての富士山と麓の多様な生態系	
1-1 富士山の姿	15
1-2 地形地質	17
1-3 湧水	19
1-4 多様な生態系	21
1-5 保全活動	23
富士山と信仰、人々の暮らし	
2-1 信仰と芸術	25
2-2 偉人の足跡	27
2-3 産業	29
2-4 お祭り	31
富士山麓の食の恵み	
3-1 麺料理	33
3-2 食材	35
3-3 畜産とジビエ	37
感動と学びを得る旅の舞台	
4-1 アクティビティ	39
4-2 研究・教育施設	41
■ 来訪者分析	45
■ インタープリテーションメディア	49
■ インタープリテーション全体計画をこんな風につかっていきたい	57
■ 富士山麓にもっと詳しくなる参考文献リスト	58
■ インタープリテーション全体計画の作成に関わった方々	61

はじめに

本書は、富士箱根伊豆国立公園の富士山麓地域でお客様をお迎えする『すべての関係者の皆様』に向けて、お客様にお伝えしたい、感じていただきたい富士山麓らしさ（富士山麓ならではの魅力・価値）を整理したものです。『すべての関係者の皆様』とは、宿泊施設や飲食店、お土産物店、ガイドや観光案内所、ビジターセンター、交通機関や様々な観光施設などで働く、すべてのスタッフの皆様、並びに、住民の皆様、また、そうした地域の皆様をバックアップし、地域全体の観光マネジメントやプロデュース、情報発信等を行う、行政や観光協会の皆様など、あらゆる場面で、直接的・間接的に、お客様と関わるすべての方々です。

富士山麓地域には既に多くの観光客が訪れていますが、滞在時間が短く、消費額が低いといった課題があります。これは、地域に長く滞在しながら、その魅力を深く体験・理解するような旅の仕方が、迎え入れる地域の中でも、来訪者の間にも十分に広がっていないためと考えられます。そのため、地域一丸となって、富士山麓の自然や歴史、食文化、様々なアクティビティという多様で豊かな資源を土台として、その魅力・価値や楽しみ方を伝え、来訪者と地域の資源を結びつけること（インタープリテーション）が重要です。富士山の成り立ちや麓での人々の暮らし、自然との関わり合いといった、この地域ならではの「ストーリー」を価値として伝え、単に「富士山を見て美しいと感じる」だけでなく、より充実した国立公園での体験を提供することが、お客様にとって満足度の高い滞在に繋がるはずです。また、この地域に住む方、事業をされる方にとっては、末永くお客様を迎えられる持続的な観光地となっていくことが期待されます。そのため、地域の魅力・資源を関係者と共有できるように整理、言語化し、「インタープリテーション全体計画」を作成しました。

このインタープリテーション全体計画は、「みんなでつくる、みんながつかう」を合言葉に、富士山麓地域の多くの観光事業者や住民の皆様が参加するワークショップを通して作成しました。足元の大切な資源を見つめ直すと共に、お客様に本当に体験してほしいことは何かをみんなで話し合いながら、他の地域には無い「富士山麓ならではの魅力的なストーリー」をつむぎました。

本計画が、富士山麓地域のより多くの関係者の皆様の手に渡り、皆様を通じて、お客様がストーリーを感じていただけることを願います。

インタープリテーション全体計画の作成は、全国でもまだ新しい取り組みです。本計画は、この地域で初の取り組みであり、整理の仕方をはじめ、情報が不足している点や、場合によっては認識違いがある点も出てくるかもしれません。富士山麓での滞在をより魅力的なものにする過程で、本計画自体も随時アップデートしていきたいと考えております。本書を手にとった方の中で、お気づきの点などがある場合は、インタープリテーション全体計画作成事務局・環境省富士五湖管理官事務所（0555-72-0353、RO-FUJIGOKO@env.go.jp）までご一報ください。次回の改定時に検討・修正等をさせていただきます。

インタープリテーションとは

「インタープリテーション」は、国立公園や世界遺産、観光地などで、地域の魅力や価値を、来訪者と共有するためのコミュニケーションです。自然環境や風景、文化財などが持つ固有の価値やストーリーを来訪者と共有し、来訪者と地域の大切な資源との間に特別なつながりをつくれます。

楽しい体験の促しや、魅力的なストーリーを通じて「その場所らしさ（Sense of Place）」を伝えるのが基本的なアプローチです。ガイドや体験プログラムにはじまり、お客様との何気ない会話やちょっとしたご案内の中、また、Webサイトや展示や印刷物、時には、料理やお土産品、場のしつらえなど、さまざまな場面や方法で、一貫したストーリーを伝えることが大切です。

そのために作られるのがインタープリテーション全体計画です。国立公園や世界遺産はもちろん、ミュージアムや観光地、観光施設などにおいてもインタープリテーション全体計画が作られるようになってきています。



富士山麓のインタープリテーション 全体計画の目的

世界に知られる富士山の麓であることから、富士山麓地域には、既に国内外から多くの観光客が訪れています。富士箱根伊豆国立公園全体では、その数は年間1.3億人にものぼります。しかし、富士山麓地域では、観光客の滞在日数が短いこと、エコツアーなどのアクティビティ利用率が低いこと、平均消費額が低いことが指摘されています。これは、その場所固有の価値や魅力を深く理解し、満足感をもって長く滞在するような観光が浸透していないことの証左です。

美しい自然の風景やその土地のグルメなどは、だれもが楽しめるものですが、その背後にある『ストーリー』は目で見ただけでは知ることができません。単に「美しい富士山」を見て帰るのではなく、富士山が現在の姿に至るまでの何万年もの地球の営みやそのダイナミックさ、大地の上で営まれた自然史や、人々の生活・自然と結びついた食文化など、過去から現在まで続く歴史的な意味や価値といった目に見えない背景も含めて、お客様と共有することで、もっと楽しんでもらい、富士山麓という場所との結びつきを深めてもらうことが、インタープリテーションの第一義的な目的（触発）です。さらには、来訪と滞在を通じて自然の大切さや、社会の持続可能性を考える機会（学び）を提供することも目的です。

そのため、富士山麓の強みである①自然、②歴史・文化、③食、④多様なアクティビティを中心としたインタープリテーションを実施し、資源と来訪者を結びつけることで、より質の高い富士山麓観光（富士山をパッと見て帰るだけにとどまらない味わい深い滞在）の実現を図ります。

インタープリテーション全体計画は、そのための資源、体験、ストーリーやメディアを包括的にまとめ、インタープリテーションに関わるすべての方と共有するものです。

▼富士山を見て帰る立ち寄り型観光（イメージ）

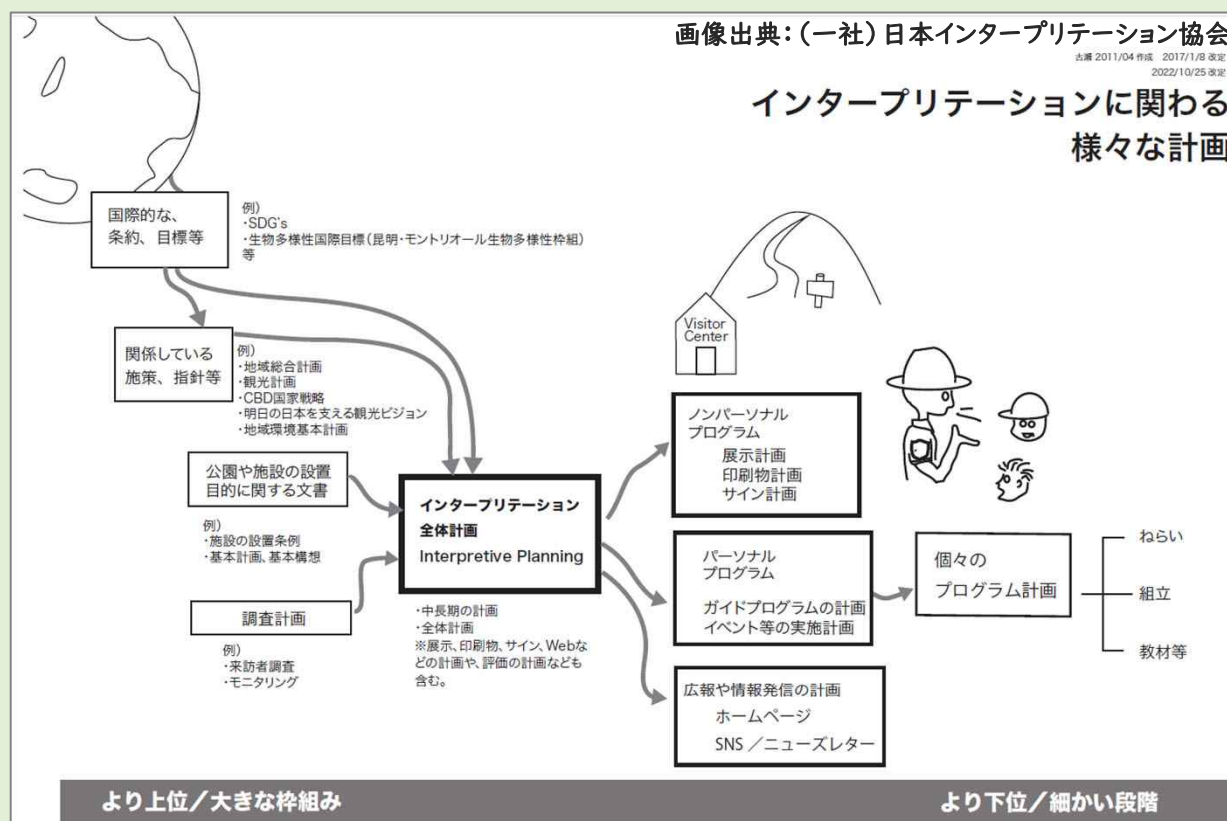


インタプリテーション全体計画

インタプリテーションには、様々な計画やプログラムに関わります。より上位・大きな枠組みでは、国際的な条約や目標、国の施策や指針、公園や施設の文書、モニタリング調査などがあります。より下位・細かい段階では、個別の展示・サイン計画やガイドプログラム、HP等の情報発信方針などがあります。

インタプリテーション全体計画は、これらのインタプリテーションに関わる様々な計画を包括し、より大きな枠組みから個別の細かいプログラムまでを体系的に結びつけるものです。

※ インタプリテーション全体計画について、より詳しく知りたい方は、
一般社団法人日本インタプリテーション協会のHPや講座をご覧ください。

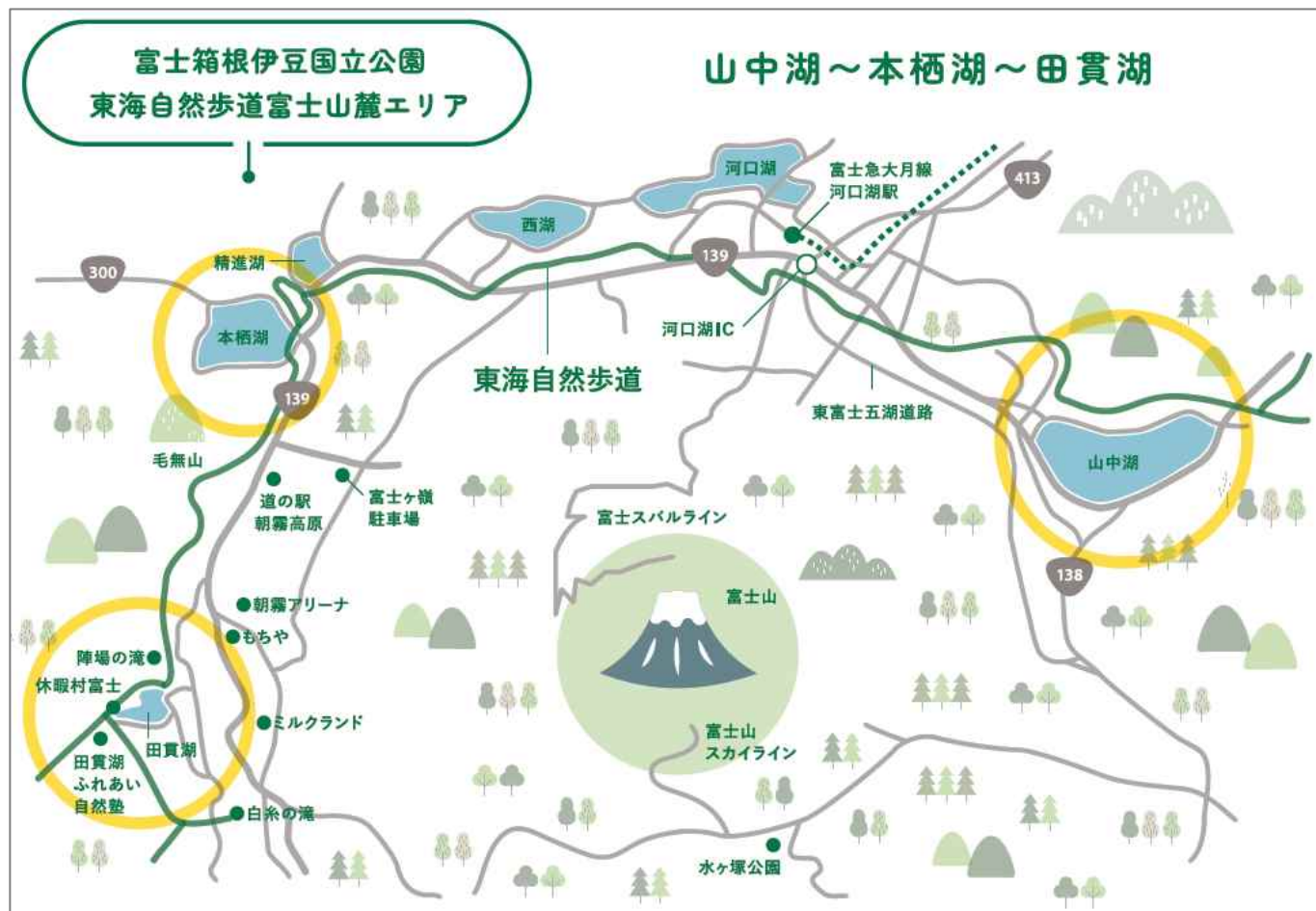


富士山麓を「歩く旅」とは

富士山麓には、1974年に開通した日本第1号の長距離自然歩道「東海自然歩道」が通っています。東海自然歩道は、東京の高尾山から大阪の箕面公園まで続く、全長約1,700kmの自然歩道（ロングトレイル）です。

山梨県から静岡県にまたがる富士山麓は、東海自然歩道と国立公園が重なる唯一の区間です。この区間には、富士五湖や田貫湖、青木ヶ原樹海、ススキ草原、北口本宮富士浅間神社など、富士山や人々の暮らしと共に形作られたこの地域ならではの豊かな自然と歴史文化、そして場所や時間ごとに移り変わる景色を楽しみながら、富士山の周りをぐるっと歩くことができます。

この東海自然歩道やその周辺の富士山麓のトレイル（登山道、歩道など歩く道）は、一人でのんびり歩いたり、仲間と一緒にハイキングをしたり、寄り道をして湖で遊んだり、それぞれの楽しみ方ができます。ここでは、そうしたトレイルを歩きながらじっくりと楽しむことを「歩く旅」としました。



東海自然歩道とは

東海自然歩道は、日本初の長距離自然歩道。東京都八王子市の高尾山から大阪府箕面市の箕面公園を結び、全長は1,748km。関東・中部・近畿地方を横断し11都府県・60市町村にまたがる歩道は、都市と自然を結ぶ道として、多くの人々に親しまれています。

自然歩道の構想は1969年1月、全線開通は1974年4月、高度経済成長期真っ只中です。

当時の日本は、

- ・国土の急激な都市化、工業化
 - ・モータリゼーション（自動車の普及）の進行
- を原因とする社会問題があり、加えて、野外レクリエーションの需要も急増していました。

このような時代背景を受け、東海自然歩道は

- ① 人間性の回復
 - ② 歩くことの復権
 - ③ 国土の都市化、工業化に対する自然保護の防波堤としての機能
- を目指し、構想が生まれます。当初の目的は、自然保護の側面が強かったものの、実際には「東京と大阪を歩いて結ぶ」という新鮮な提案が当時の人々に広く受け入れられ、構想から5年で開通。現在は総利用者数3億人を超え、年平均693万人（1976～2022年統計）と、多くの人々に愛される自然歩道となりました。

歩道が通る地域の自然保護をはかりつつも、四季を通じてハイキングができるように整備されており、人々が自然に親しむ、現代版の“東海道五十三次”といえるロングトレイルです。

長距離ハイキングはもちろん、気軽に楽しめるコースも充実しており、自然と歴史を感じながら歩く贅沢な時間を楽しむことができます。

山、海、渓谷、湖、滝といった大自然はもちろん、道中には歴史的な名所や寺社仏閣も点在。緑豊かな自然と貴重な歴史文化財を訪ねながら、心身の健康と安らぎを得るための場となっています。



東海自然歩道ルート
（出典：環境省）



自然歩道でみられる景観
（出典：環境省）

インタプリテーション全体計画を こんな風につかってほしい

例えば、このインタプリテーション全体計画を活用することで、富士山地域関係者の皆様にはこんな風につかってほしいと考えています。

直接お客様と接する方

お客様からの質問への回答や、何気ない会話の中で、富士山麓らしさ（富士山麓ならではの価値）やその楽しみ方をお伝えし、富士山麓に来なければ味わえなかったモノ・コト・時間・感動を持ち帰っていただくご案内をしていただきたいと思います。

ガイド・インタプリターの方

ガイドツアーや体験プログラムなどを通じて、お客様に、富士山麓らしさ（富士山麓ならではの価値）をお伝えし、富士山麓に来なければ味わえなかったモノ・コト・時間・感動を持ち帰っていただく、一番の担い手になっていただきたいと思います。また、ストーリーの土台となる資源の大切さをお客様にお伝えし、環境や文化の保全や継承の担い手になっていただくとともに、インタプリテーション全体計画を地域の中で広めていく主体となっていただきたいと思います。

宿泊施設（ホテル、旅館、民宿、ペンション、キャンプ場など）の方

旅先での宿泊は、お客様の旅の中で重要な要素を占めます。宿泊施設で滞在しながら、どこに向かうか次の旅程を考えるお客様もいます。滞在の拠点となることから、総合案内、旅のコンシェルジュのように、お客様に富士山麓らしさ（富士山麓ならではの価値）をお伝えしていただきたいと思います。

飲食店や料理人、観光施設、お土産物店・交通事業者の方

料理やしつらえ、施設内の展示や案内板、お土産やそのパッケージ、お客様を運ぶ車内の掲示や会話など、お客様に接する際に、お客様に、富士山麓らしさ（富士山麓ならではの価値）をお伝えし、富士山麓に来なければ味わえなかったモノ・コト・時間・感動を持ち帰っていただくお手伝いをいただけるようになってほしいと考えています。

行政、観光協会、観光案内所の方

ハード・ソフトにかかわらず、地域全体の方向性を検討する際に、各事業者やお客様に関わるすべての関係者が、お客様に、富士山麓らしさ（富士山麓ならではの価値）やその楽しみ方をお伝えしやすくなるように、また、富士山麓に来なければ味わえなかったモノ・コト・時間・感動を持ち帰っていただくことの一翼を担っていただきやすくなるように、地域全体の持続可能性を踏まえた総合的なマネジメント（施策の舵取り）や、官民の垣根を越えた連携構築をしていただきたいと思います。

【インタープリテーションと波及のイメージ】

行政

観光地経営の方針、
観光政策



DMO・観光協会・観光案内所

マーケティング・プロモーション、
情報発信、総合案内



直接お客様と接する方

お客様からの質問や、何気ない会話



ガイド・インタープリター

ガイドツアーや体験プログラム
でのガイダンス



宿泊施設

滞在中のご案内、
おすすめスポットの紹介



富士山麓のみんなで
インタープリテーション

飲食店

地の物をつかった料理
とそのしつらえ



お土産屋・道の駅

その場所ならではの商品
名産品・商品POP



交通機関

駅のポスター、
タクシーの中での案内



施設（博物館など）

展示、
学芸員・スタッフの案内



富士山麓に来なければ味わえなかった感動体験
(富士山麓をもっと楽しんで、もっと好きになる)



SNSでの発信



再来訪



お土産などお裾分け



富士山麓の重要な資源

自然

富士山の風景

- ・印象の異なる赤富士と紅富士
- ・南から見ると男富士、北から見ると女富士
- ・ダイヤモンド富士、パール富士
- ・湖面に映し出される逆さ富士
- ・初夏に富士山にかかる虹
- ・旧千円札の富士（本栖湖中ノ倉峠）
- ・三方分山から見る富士山と精進湖
- ・富士山がどーんと見える高指山と大平山
- ・元旦のダイヤモンド富士が見られる竜ヶ岳
- ・日本の魅力が詰まった忠霊塔
- ・忍野村の桂川
- ・足和田山（五湖台）、紅葉台展望レストラン
- ・駿河湾、南アルプスまで一望する竜ヶ岳～雨ヶ岳
- ・地元の人しか知らない朝霧高原からの富士山
- ・人々が守ってきた明神山のススキ草原と富士山



夜景・星空

- ・夏の夜の登山道のあかり（富士登山者のライト）
- ・月明りに浮かぶ黒い富士山と満点の星空

生き物

- ・山中湖の野鳥、湖のカエル ・生きていた西湖のクニマス
- ・道の飛び出す動物（ロードキルに注意!）

富士山の湧水

- ・毛無山山系、猪之頭の里
- ・15年の水の旅、白糸の滝・陣馬の滝
- ・富士山西麓で唯一残された小田貫湿原

富士山の湧水でできた湖沼群・人造湖

- ・誰も居ない早朝の湖上の気嵐
- ・本栖湖（日本屈指の透明度と深さ）
- ・山中湖（雲海）
- ・西湖（気嵐、星空・流れ星） ・田貫湖（実は人造湖）

富士山麓の森

- ・原始林、青木ヶ原樹海、雪景色の樹海
- ・三湖台から眺める視界いっぱいの樹海
- ・紅葉台から見る樹海
- ・湖上から見る樹海の断面
- ・季節毎に異なる足もとの小さな草花、植物
- ・新緑の大室山
- ・富士山五合目森林限界、御中道

溶岩洞窟たーくさん!

- ・竜宮洞穴、鳴沢氷穴
- ・昔は氷の宮殿だった富士風穴



その他

- ・西湖の末端崖 ・川尻金山

歴史文化

富士山の芸術

- ・葛飾北斎の富嶽三十六景
- ・ゴッホ



日本人の自然観と富士山信仰

- ・富士講、人穴で悟りを開いた角行
- ・富士山本宮浅間大社、北口本宮富士浅間神社
- ・木花咲那姫（コノハナサクヤヒメ）

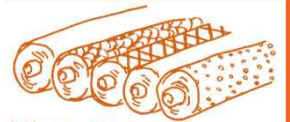
地元の信仰とお祭り

- ・吉田の火祭り（日本三大奇祭）
- ・巨岩に圧倒される石割山、石割神社
- ・河口の稚児の舞・めまき
- ・道祖神まつり



養蚕・ハタオリ

- ・ハタオリ町 富士吉田
- ・天然の冷蔵庫（洞穴）で繭を保存（芦川、足和田）
- ・コノハナサクヤヒメ・蚕の神様
- ・富士吉田の飲み屋街・スナック（西裏地区）



歴史上の人物ゆかりの地

- ・源頼朝ゆかりの陣馬の滝、富士の巻狩り（下馬桜）
- ・織田信長は本能寺の変前に富士山を見ていた!?
- ・西山本門寺 ・武田信玄 ・徳川家康 ・聖徳太子

森林を活用した暮らし

- ・まなびの杜（河口湖大石）

富士開拓

- ・朝霧高原の酪農開拓

食

各地の麺料理

- “コシ”を超えている?養蚕業と結びついた吉田のうどん
- 山梨県伝統食 ほうとう
- 満州のあの味が忘れられない!もちもちの富士宮やきそば!

命をいただく

- 朝霧高原の乳製品
- シカ・ジビエ料理(ジビエセンター)



キノコ・山菜・野草

- イタドリ→食用・痛み止め
- ムラサキツユクサ→食用、染みもの
- このエリアにしか無いキノコ
- さるなし
- こんにゃく

伝統食

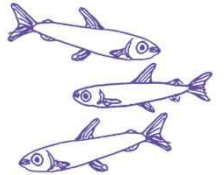
- 河口湖のお祭りで食べるめまき
- 柚野の酒造り

新鮮野菜・有機野菜

- 鳴沢村のおやしき
- なるさわ菜
- 大根の長さの切り干し大根(芦川)

富士山の伏流水が育む食材

- 富士山の地下水で育ったニジマス
- 朝霧高原の養鱒場
- 猪之頭のマス
- ヒメマス
- 山中湖の公魚わかさぎ
- おいしい水でできたワサビ
- 駿河湾から峠をこえて運ばれる甲斐の煮貝



陸

東海自然歩道

- 4月バイカオウレンの咲く東海自然歩道(樹海エリア)
- 樹海(春)、山中湖周辺(秋)、朝霧高原(夏)
- 浅間神社、道祖神

トレッキング・魅力的なトレイル

- 登り・下り・尾根歩き様々楽しめるトレイル
- 自然の中を静かに歩けるトレイル
- 富士を愛でながらの軽いハイキング
- 馬返～御中道～御庭のトトレッキングルート
- 長者ヶ岳と天子ヶ岳のプチ登山
- サイクリング



公園、交流拠点、研究・教育・展示施設

- もちや公園、農村公園
- 山中湖交流プラザきらら
- 田貫湖ふれあい自然塾
- 本栖湖アート館
- 世界遺産センター
- 環境省生物多様性センター
- 山梨県富士山科学研究所
- 東京大学富士癒しの森研究所
- 富士山レーダードーム館



活動

歴史の道・富士登山の道

- 吉田、富士宮、須走、御殿場の登山口
- 吉田口登山道のコメツガの甘い香り
- 吉田口登山道(信仰の道)
- 精進口登山道(観光登山道)
- 中道往還・若彦路・鎌倉往還(歴史の路)
- 船津口登山道
- 北斎も歩いた「身延道」江戸から日蓮宗本山への道(富士宮、山梨(身延)、大目峠)

水

- 釣りヘラブナ釣り
- フライフィッシングのメッカ!忍野村の桂川
- 高所淡水ダイビングの聖地!本栖湖
- カヤック・SUP

空

- スカイスポーツのメッカ
- パラグライダー(朝霧高原)

富士山麓を訪れる お客様に体験してほしいこと

自然

夏の朝晩のひんやりした空気、夜の富士山の景色を見て感じてほしい

富士山が見えなくても山麓を楽しんでほしい

湖の穏やかで静かな時間を感じてほしい

おもわず手を合わせて拝みたくなる富士山の雄大な自然風景を感じてほしい



鳥や昆虫の視点で富士山の大自然を感じてほしい(ホシガラスから見る富士山の一年)

富士山の雲の動きや流れから一日の時間の移り変わりを体感してほしい

せの湖(せのうみ)の痕跡を陸と水で探してほしい



富士山の洞窟と溶岩台地に形成された生命力にあふれる森である樹海を、昼だけでなく夜も雨の日も楽しんでほしい



歴史文化

溶岩洞窟と吉田のうどんをつなぐ絹織物の文化を感じてほしい

白装束で神聖な富士山に登り、昔の人の気持ちを知る
今でも様々な富士講が存在することを知り、富士山信仰を身近に楽しんでほしい



2つの世界遺産センターを見に行き、山梨、静岡それぞれの富士山へのまなざしを知ってほしい

富士山麓の地域ならではの深い文化を体験して、日本的な自然観も感じてほしい

富士山を信仰する古の方々に思いを
はせて、遺構や遺跡を巡りながら、現在
にまで続く文化を知ってほしい

ありのままだが感じられる里山を巡って
地域の人々とふれあい、地元のお祭りも
楽しんでほしい

北斎のように歩き、
富士を愛でてほしい



サイクリングやハイキングで巡る東海自然歩道の食のフルコース(ほうとう、ブルーベリー、日本酒、ワイン、牧場アイス)を堪能してほしい

桜の時期に、富士山本宮浅間大社や芦川の河川敷で地元の日本酒を飲みながら花見を楽しんでほしい

地元のおじいちゃん、おばあちゃんに教えてもらいながら、家ごとに味も違う家庭のほうとうを味わってほしい

芦川や他の集落の地元のお家の縁側を巡り、お母さんがつくった漬物や干し物を食べてほしい



東海自然歩道を歩きながら、各地の食材集めや酪農体験をしてほしい



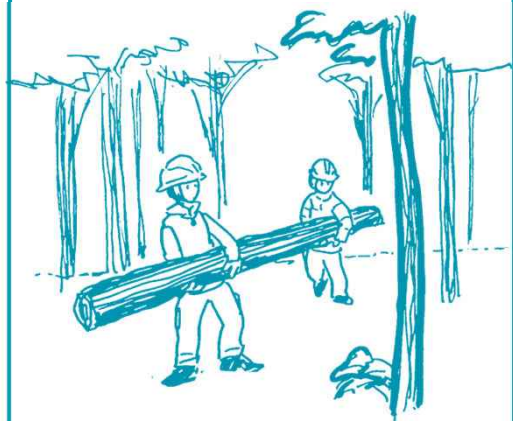
樹海や湖の歴史、成り立ちの勉強しながら、ヒメマスやワカサギ釣りをし、釣ったばかりの魚を食べてほしい

山に入り、増え続ける獣害や狩猟の必要性を学びながら、解体見学やジビエ料理を通して「命をいただく」体験や野生動物管理について考えてほしい



食

石割山で近自然工法による登山道整備(自分たちで歩く道を自分たちで直す活動)を知ってほしい



パラグライダーで大飛行して大空から日本一の富士山を見てほしい

サイクリングや歩きながら里山や湖を巡り、地元の人との交流やそこでしかできない本物の体験をしてほしい

生産量日本一のニジマス釣りを楽しんでほしい

子どもたちに虫に興味を持ってもらいたい



活動

トレイルを数日間かけて歩き、静岡・山梨の県境を越えて、ひとつながりの富士山を周遊してほしい

富士山の大自然を空・陸・湖や川から感じる自然体験アクティビティーにチャレンジしてほしい

みんなで共有したい価値 富士山麓って何がすごいのか？

インタープリテーション全体計画では、富士山麓を訪れた方と共有したい地域の魅力、お客様に伝えたい大切な価値を「テーマ（メッセージ）」として文章化して整理しています。たくさんの価値がありますが、そのなかでも特に他地域には無く、富士山麓を特徴づけている価値をみんなでつむぎました。

それぞれの価値には、地域の景観や文化的資源に共通している考えや見方を、端的な文章として記述しています。インタープリテーション全体計画でまとめた、お客様と共有したい富士山麓ならではの価値は次のとおりです。

富士山麓ならではの価値1：火山としての富士山と麓の多様な生態系

- 1-1 富士山の姿
- 1-2 富士山の火山活動を感じさせる地形地質
- 1-3 富士山に降って地上に湧き出る水の旅
- 1-4 富士山の麓で暮らす生き物たち
- 1-5 自然を未来へつなぐ環境保全活動

富士山麓ならではの価値2：富士山と信仰、人々の暮らし

- 2-1 世界文化遺産「富士山ー信仰の対象と芸術の源泉」
- 2-2 富士山を見た歴史上の偉人たちの足跡
- 2-3 富士山の火山灰で覆われた痩せ地ならではの産業
- 2-4 富士山信仰だけでなく地元のお祭り

富士山麓ならではの価値3：富士山麓の食の恵み

- 3-1 地域の胃袋を支える麺料理
- 3-2 富士山の森・山・湖の食材
- 3-3 命とつながる畜産とジビエ

富士山麓ならではの価値4：感動と学びを得る旅の舞台

- 4-1 富士山を見ても見なくても楽しめるアクティビティ
- 4-2 富士山周辺に集まる研究・教育施設



富士山の姿

紙幣にも描かれた美しい姿が、
うちの富士山の誇りとなり、
訪れる人々をワクワクさせる

富士山は日本一高い山であり、季節や時間、場所ごとに異なる多彩な姿を見せてくれます。夏の「赤富士」、冬の「紅富士」、「ダイヤモンド富士」、「逆さ富士」など…、それぞれに名前が付けられ、その麓に広がる富士五湖や地域の暮らしと相まって、人々を惹きつける富士山の風景をつくり出しています。“富士の写真家”として国内外にひろく知られる岡田紅陽は、富士山を「富士子」と呼び、恋人のような想いで撮影していました。私たちの日々の暮らしの中で、いつもそこにある富士山は日本のシンボルであり、私たちの「心の山」として息づいています。



■ 男富士と女富士



写真提供:やまなし観光推進機構



写真提供:静岡県観光協会

富士山には「男富士」と「女富士」という呼び名があります。見る方向によって富士山の印象が異なり、山梨県側から望む富士山は力強く荒々しい姿をしていることから「男富士」、静岡県側から見る富士山はなだらかで優美な稜線を描くため「女富士」と称されます。この違いは、火山活動による地形の変化や風の影響による浸食の差によるものと考えられています。どちらの富士山も、それぞれに異なる美しさを持ち、見る場所によって表情が変わるのが魅力です。ぜひ、さまざまな角度から富士山を眺め、その雄大な姿を堪能してみてください。

■ 赤富士と紅富士



写真提供:山中湖観光協会



写真提供:やまなし観光推進機構

山頂に雪がない富士山が朝日や夕日で真っ赤に染まって見える様子を「赤富士」と呼び、とても縁起の良いものとされます。葛飾北斎の描いた「凱風快晴（がいふうかいせい）」が有名です。一方、雪を被った富士山が鮮やかな紅色に染まった様子を「紅富士」と呼びます。

いずれも、天候や季節、見る位置などの条件が揃わなければ見ることはできませんが、「紅富士」の方が比較的に見られる機会が多いようです。

■ ダイヤモンド富士、逆さ富士（田貫湖）



写真提供:静岡県観光協会

日の出や日の入りのタイミングで、太陽が富士山頂と重なるように見える様子を「ダイヤモンド富士」と呼びます。日の出時には富士山西麓、日の入時には富士山の東側で見られます。特に、田貫湖がダイヤモンド富士（4月・8月の20日前後）の名所です。

■ その他のおすすめの場所

- 高指山
- 石割山
- 桂川
- 三湖台、紅葉台
- 竜ヶ岳から雨ヶ岳
- 明神山
- 大平山
- 足和田山（五湖台）
- 三方分山（精進湖北側）
- 朝霧高原

■ 中ノ倉峠からの富士山



写真提供:浩庵

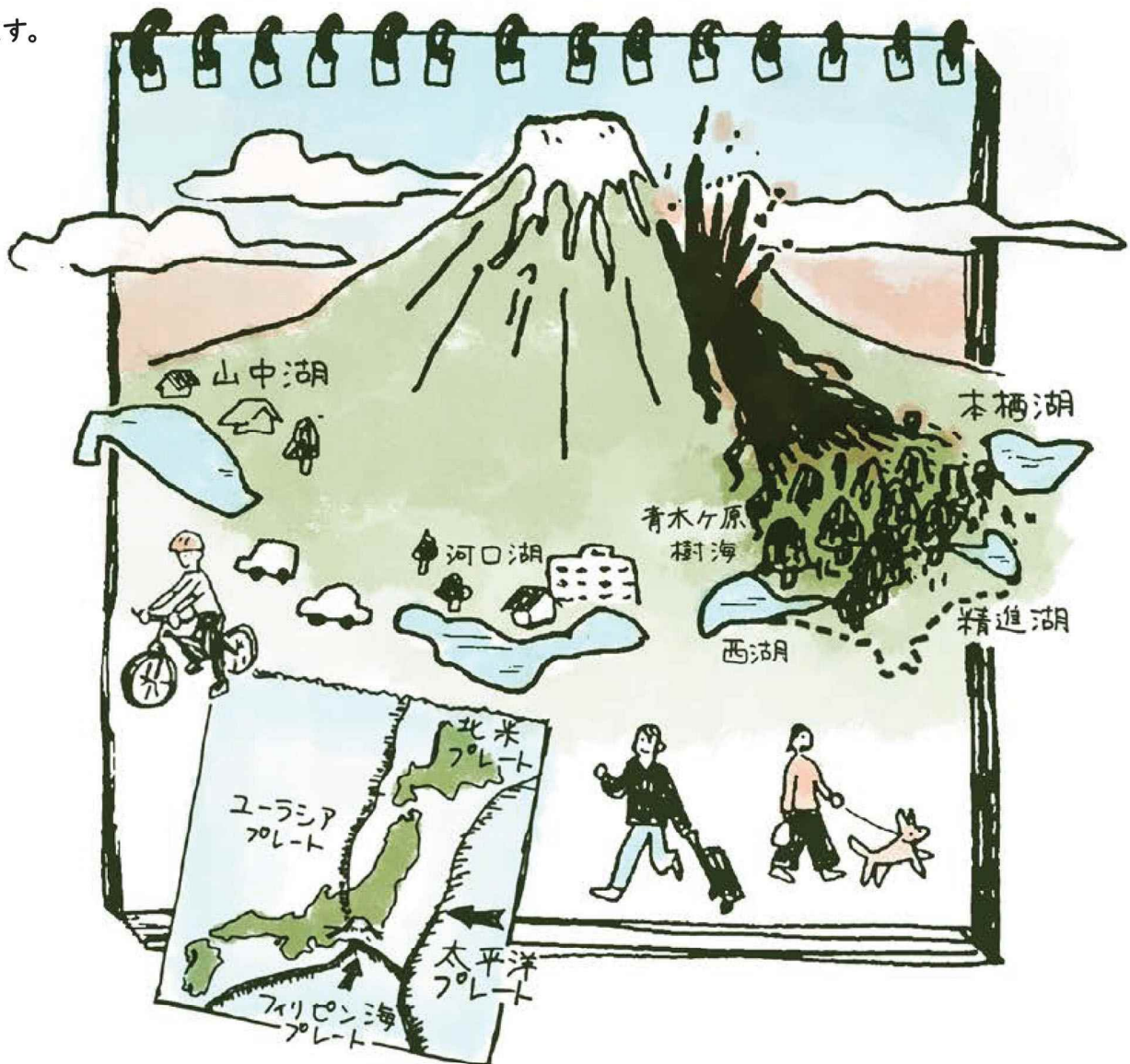
中ノ倉峠は本栖湖西岸に位置し、登山道を30分ほど歩くと到達できる雄大な富士山と本栖湖を一望する絶景スポットです。ここは「富士の写真家」として有名な岡田紅陽が、1935年に代表作「湖畔の春」を撮影した場所として知られ、日本の紙幣の図柄として採用された景色が広がります。ただ、風が強い本栖湖で「逆さ富士」を見ることができるのは年に数回程度だそうです。

逆さ富士：富士山麓に点在する湖の湖畔などで、水面に富士山の姿が反射して見えることがあります。このような上下反転した富士山の風景を「逆さ富士」と言います。逆さ富士は、富士五湖、田貫湖などで見られます。

数十万年にわたる火山活動が、 広大な裾野や多くの洞窟をつくり出し、 ダイナミックな地球の営みを今も感じさせる

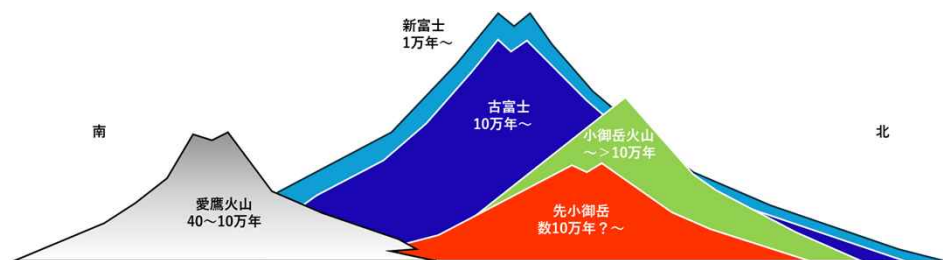
富士山は数十万年前から噴火活動をしている活火山です。「噴火のデパート」と呼ばれるほど様々な噴火をくり返しながら、噴出物が堆積し、山体は現在の円錐に近い形となりました。多くの火山活動は、人々や生き物が暮らせる広大な裾野と湧水も与えてくれました。

貞観6年(864年)に富士山北麓で噴火・噴出した青木ヶ原溶岩流は、記録に残る中では最大の噴火で、東京ドーム1,000杯分に相当する13億 m^3 のマグマが噴出しました。溶岩流は溶岩洞窟(トンネル)や溶岩樹型を形成し、風穴、氷穴が無数に存在します。洞窟はそうした火山活動の痕跡に触れられる身近な秘境であり、信仰の対象、養蚕業、観光と多くの面で人々と関わり合い、生活や文化に息づいています。



■ 富士山の噴火の歴史

富士山は、北アメリカプレート、ユーラシアプレート、フィリピン海プレートという3つのプレートが地中でぶつかる場所にあり、さらに東側から太平洋プレートが沈み込む、世界でも稀に見る地学的に特別な場所に位置しています。



富士山の地下構造（吉本ほか，2004）、先小御岳火山、小御岳火山は玄武岩、安山岩、デイサイトからなるが、古富士火山、新富士火山は基本的には玄武岩マグマのみ

この複雑なプレートの重なりにより、地下にマグマがたまりやすく、富士山では多様なタイプの噴火が繰り返されてきました。富士山の噴火には、溶岩が地表を流れる「溶岩流」、高温の火山灰や岩石が高速で流れる「火砕流」、山の一部が崩れ落ちる「山体崩壊」、遠方にまで灰を降らせる「火山灰の降下」などがあり、その多様さから「噴火のデパート」とも呼ばれています。なかでも有名なのが、1707年の宝永噴火で、大量の火山灰が江戸（現在の東京都心部）にまで降り積もり、農作物や暮らしに大きな影響を与えました。また、さらに昔の864年の貞観噴火では、溶岩流が北西斜面を覆い尽くし、現在の青木ヶ原樹海を形成したほか、流れ出た溶岩によって河川がせき止められ、新たな湖が生まれました。これが本栖湖・精進湖・西湖を含む富士五湖の形成に大きく関わっています。こうした火山活動は、約10万年前から始まったとされ、小御岳火山期、古富士火山期、そして現在の新富士火山期を経て、今日の美しい円錐形の富士山がつくられました。

■ 溶岩洞窟（富岳風穴、鳴沢氷穴など）



富士山麓には、100以上の溶岩洞窟があります。溶岩洞窟とは、洞窟のうち溶岩からできたもので、その形成にはいくつかのパターンがあります。一つは、流動性が高い富士山の溶岩が流れ出た際、外面部が先に冷えて固まる一方で、内面にはまだ勢い良く溶岩が流れ、表面から突き破ることで空洞ができたものです。他にも、溶岩の中で溜まったガスや水蒸気が突き破って空間ができたものもあります。

洞窟内は幻想的な世界が広がり、夏でもひんやりと涼しい「天然の冷蔵庫」です。大きな氷柱のできる溶岩洞窟は観光スポットにもなっています。

また、かつては蚕の貯蔵や種子の保存に利用されるなど産業と結びついたり、「人穴」のように不思議な伝説や信仰を伴う場所もあります。

■ 溶岩樹型（陣馬の滝の太鼓石など）



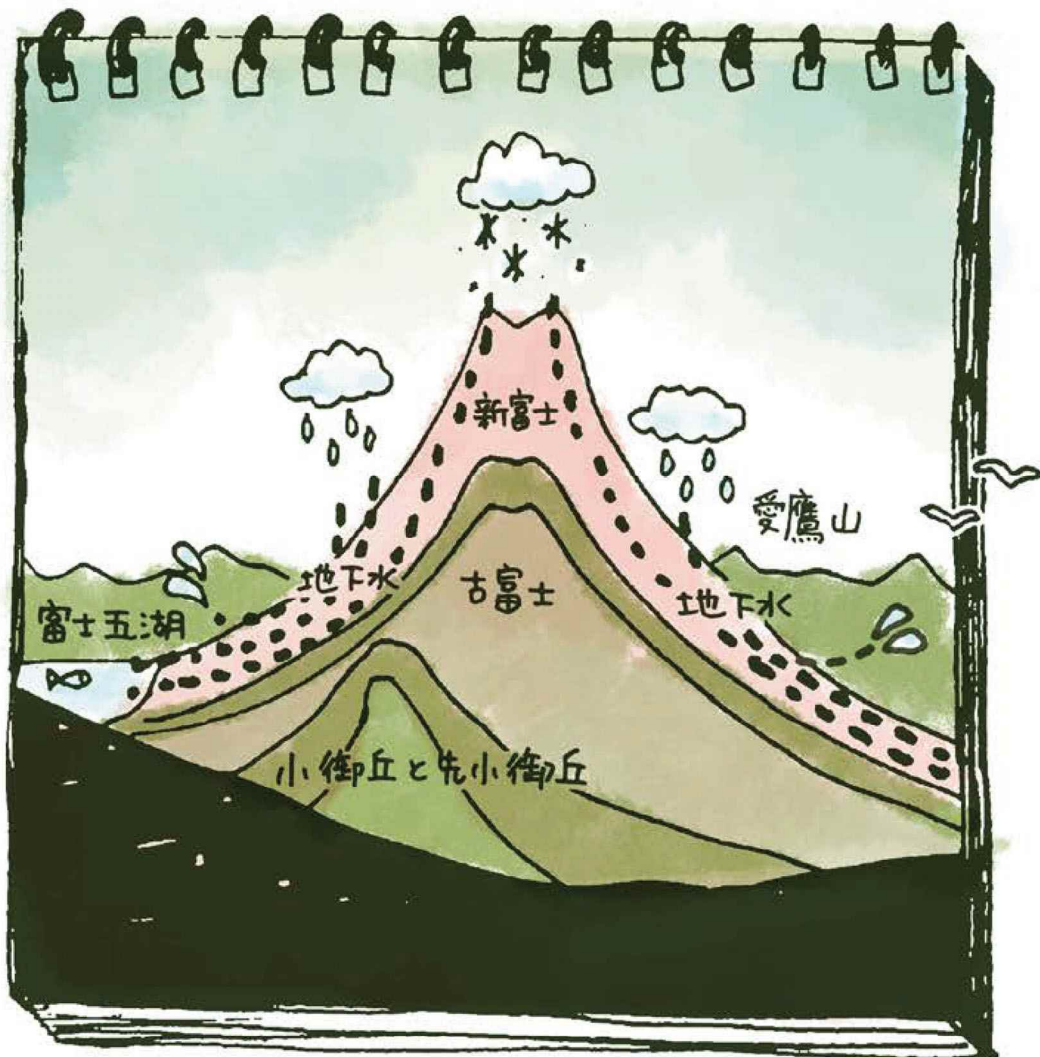
富士山一帯は溶岩樹型の質・量ともに世界一ともいわれます。この溶岩樹型は、富士山の噴火で流れ出た溶岩が樹木を包み込み、木が燃え尽きた後に円筒状の空洞だけが残ったものです。

陣馬の滝付近の遠照寺にある「太鼓石」は、富士山の火山活動によって生まれた溶岩樹型の一つです。源頼朝がこの地で陣を張った際、滝の方から太鼓のような音が聞こえ、家臣が調べたところ、中が空洞の石が見つかったことに由来します。陣馬の滝の水が当たること、まるで太鼓を叩くような音が響いていたのです。

湧水

雨や雪が長い年月をかけて富士山の地下に浸透し、
豊かな湧水となって水の世界をつくり出し、
地域の自然や人々の命を潤している

富士山には年間で約22億トン、東京ドーム約2,000杯分もの雨や雪が降り、1日約500万トンが富士山体へ浸みこみます。地下水は新旧の地層を十～数十年かけて旅し、溶岩の末端から湧き出して忍野八海や白糸の滝、陣馬の滝を潤しながら、富士五湖や川、駿河湾といった海へと流れ込みます。年間を通して水温約13～15度の清らかな湧水は、飲み水や陸や水の生き物を育む源となり、地域の生活と産業を支えています。富士山やその周辺の山体は、こうした豊かな水の流れを通して、自然や人々の命に恵みを与え続けています。

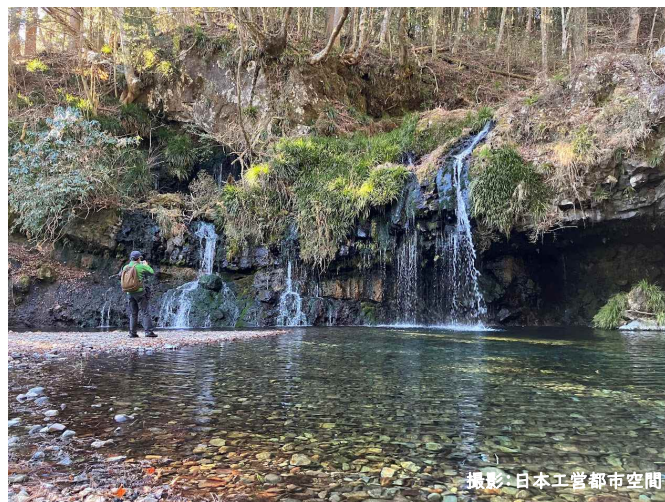


■ 「水の都」猪之頭、陣馬の滝



撮影：環境省

静岡県富士宮市の猪之頭（いのかしら）地区は、「水の都」と称される豊かな湧水に恵まれた地域です。富士山に降った雨や雪が数年～数十年かけて地下に浸透し、清らかな湧水となって湧き出します。中でも「陣馬の滝」や「猪之頭湧水」は特に有名で、その水は地域の農業や生活に欠かせません。この豊かな水を活かした養鱒（マスの養殖）やワサビの栽培が盛んです。また、富士宮市は小水力発電事業が古くから行われており、発電所数、最大発電出力の合計が共に日本一です。



撮影：日本工営都市空間

富士山西麓には、陣馬の滝や白糸の滝など有名な滝が存在します。五斗目木川（ごとめきがわ）にかかる陣馬の滝は、1193年に源頼朝が富士の巻狩りを行った際に、近くに陣を張ったことでその名がつけられました。上流からの水の流れと、溶岩層のすき間から湧き出す水がしみ出す湧水のため、水温は一年を通して10度前後と一定に保たれています。水の中にいる水生昆虫の観察も楽しめる場所です。

■ 富士五湖（山中湖、河口湖、西湖、精進湖、本栖湖）



山中湖

撮影：日本工営



精進湖

撮影：環境省

富士山の北麓に弓形に並ぶ5つの湖は富士五湖と呼ばれ、いずれも富士山から流れ出た溶岩流によってせき止められた「せき止め湖」です。約1万5000年前からの度重なる噴火によって、溶岩流が川をせき止めたり、地形を変化させたことで形成されました。山中湖以外の4つの湖は自然の放水河川がない閉塞湖です。それぞれの湖は異なる特徴を持ち、富士山を映し出す美しい風景やアクティビティがあります。

[本栖湖]五湖の中で最も深く（最大水深121.6m）、日本有数の透明度を誇り、高所淡水ダイビングを楽しめる国内でも珍しい場所です。

[精進湖]最も小さく、「子抱き富士」と呼ばれる側火山である大室山と富士山の重なる景観が魅力です。

[西湖]青木ヶ原樹海に隣接する湖。絶滅したとされた「クニマス」が2010年に再発見されました。

[河口湖]数多くの観光スポットがあり、多くの人で賑わっています。五湖で唯一、島と橋を持つ湖です。

[山中湖]日本で3番目に高い場所にあり、五湖で最大ですが、水深は15mと一番浅い湖です。クジラの形であることや、水鳥の棲息地としても有名です。

多様な生態系

噴火の歴史と標高差が生み出した富士山麓の 地形地質が、生命力あふれる樹海をはじめ 多様な生態系を支えている

富士山麓は、幾度もの火山活動によって形成された地形、湖沼群、溶岩台地に広がる樹海、極限環境に適応した生き物、人々の手で維持されてきた草地など、多様な自然環境が共存する場所です。平安時代の貞観噴火によって一度リセットされた森では、苔と樹木が共生しながら遷移を続けています。標高差3,000メートル以上の厳しい環境の中、長い年月をかけて育まれたこの自然は、生命の力強さと変化の軌跡を映し出しています。

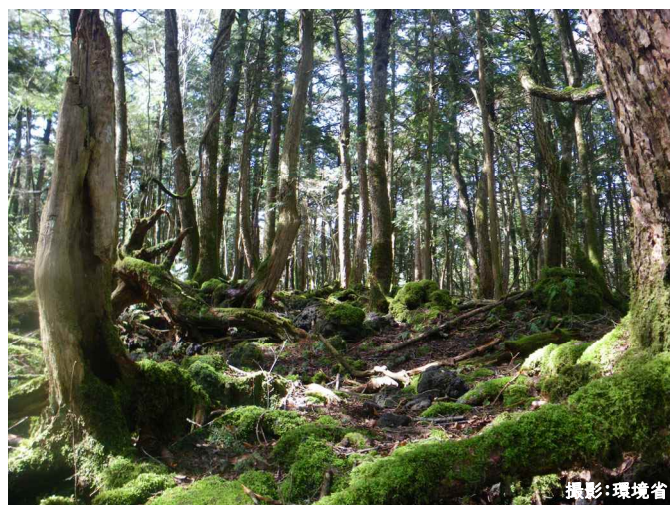


■ 青木ヶ原樹海

青木ヶ原樹海は、貞観6年（西暦864年）の貞観大噴火の際に流れ出た溶岩の上に形成された、比較的新しい原生林です。植物の垂直分布では落葉広葉樹が発達する山地帯に当たりますが、水分や養分の少ない溶岩質の土壌であることから、針葉樹も発達しています。

手つかずの自然が残されているという意味で貴重な場所であり、そこにすむ多様な生物が、豊かな富士山の自然を感じさせてくれます。

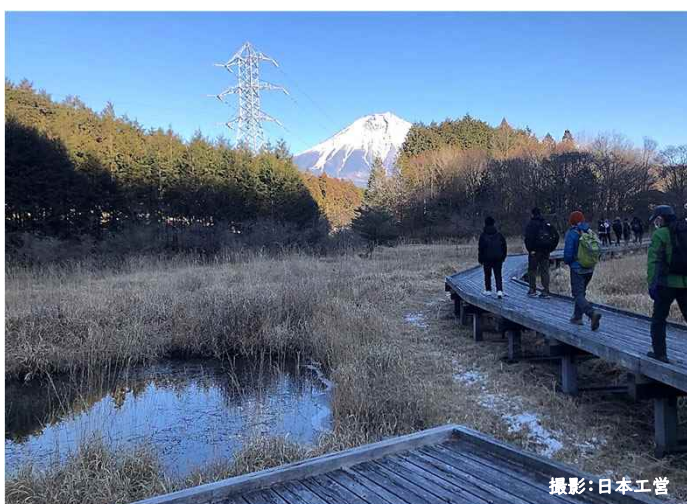
また、青木ヶ原樹海は世界文化遺産「富士山-信仰の対象と芸術の源泉」の一部ともなっており、祠や神社なども見られます。このように、畏怖の念を抱かせるほどの雄大な自然が、樹海には残されています。



■ 小田貫湿原

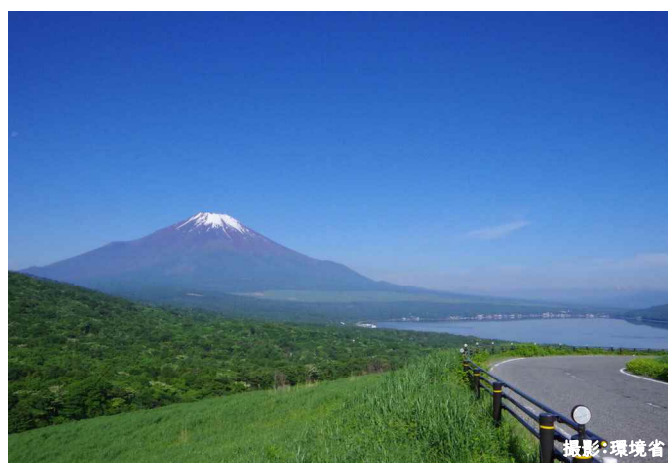
小田貫湿原は、富士山の西麓に残された唯一の湿原であり、大変貴重です。周辺の地域住民の方を中心として湿原の維持のための草刈りなどの活動が行われており、人の手で守られながら維持される自然環境です。その中には、湿原特有の貴重な動植物が多数生息しており、湿原を通る木道から観察することができます。例えば、ノハナショウブやツリフネソウといった植物がみられる他、アオイトトンボやコフキトンボなどが生息する「トンボの楽園」でもあります。

田貫湖から徒歩でアクセスできる距離にあり、ハイキングコースとして楽しむことができます。



■ 野鳥の聖地 山中湖

山中湖は、多くの野鳥が集まる絶好のバードウォッチングスポットです。湖周辺にはブナやカラマツなどの森林やススキ草原が広がっており、豊富な昆虫類が鳥たちの餌となります。観察には早朝が最適で、鳴き声を頼りに探すと見つけやすくなります。静かに観察し、自然に配慮したマナーを守ることが大切です。山中湖の豊かな自然環境の中で、野鳥たちの生き生きとした姿を楽しんでみてはいかがでしょうか。



保全活動

住む人も訪れる人も一緒になって環境保全の活動に参加し、国立公園 富士山麓の自然の価値を未来へつないでいる

富士山麓に広がる草原地は、地域に住む人が続けてきた野焼きで維持され、ごみ拾いや外来種駆除の活動には地域に住む人や企業が参加し、貴重な動植物がすみやすい環境や渡り鳥たちの貴重な越冬地を守っています。登山道整備の活動も利用者の安全を確保しつつ、植生を保全し、訪れる人々に豊かな自然体験を提供しています。こうした活動を通じて、富士山麓では人と自然が支え合い、日本の国立公園として共に未来へとつながる関係性を築いています。



■ 明神山ススキ草原

山中湖の近くにある明神山は、かつては茅葺き屋根の資材や山菜・薬草等を採取する場として、人々は草原と共に暮らし、生活スタイルが変化した現在でも、野焼き（火入れ）をしながらススキ草原が維持されています。その草原は希少な草原性のいきものたちのすみかにもなっています。こうした地域の人々の活動や草原の価値が評価され「未来に残したい草原の里100選」にも選ばれました。

人が自然に介入することで維持される生態系も、富士山麓の多様な自然環境を構成する要素の一つです



撮影：環境省



写真提供：NPO法人富士トレイルランナーズ倶楽部

■ 登山道補修の活動

石割山は、中腹の巨岩を御神体とした石割神社や山頂からの富士山の眺望が「富士山がある風景100選」に選ばれるほど美しく、年間約2万人もの（令和6年現在）の登山者が訪れます。しかし自然環境の保全を上回る利用により、登山道の洗掘が進み、植生破壊が深刻化していました。

この状況を改善し、植生を復元するため、NPO法人が中心となり、地元住民、ボランティア、行政が協力し、「近自然工法」を用いた登山道補修がスタートしました。近自然工法は、自然の地形や作用、植生を活かしながら、持続可能な道づくりを行う方法で、指導者を招き、技術を習得しながら官民が一緒になった持続的な環境保全の仕組みづくりを目指しています。

石割山の他、本栖湖周辺でも、富士山西麓観光資源“輝き”協議会が古道の補修活動が行っており、富士山麓の各地で、保全活動が継続されています。

■ ごみパトロール・清掃活動

富士山の豊かな自然を未来へとつなぐため、地域住民や企業、行政が協力し、環境保全活動の一環として清掃活動とごみパトロールが行われています。

かつて富士山麓では、ごみの不法投棄が深刻な問題となっていました。継続的な清掃活動やパトロール、不法投棄防止キャンペーンの効果により、現在では大規模な産業廃棄物の不法投棄については減少傾向にあります。

反面、家庭ごみの投棄やポイ捨てごみについては引き続き問題となっており、地道な清掃活動とパトロールが実施されています。

首都圏を中心とした企業のCSR活動や社員研修、学生ボランティア活動の場としても活用され、富士山の環境保全に貢献しています。



写真提供：認定特定非営利活動法人 富士山クラブ

信仰と芸術

時代を越えて、誰もがその姿に圧倒される 富士山は、信仰の対象・芸術の源泉として 世界文化遺産に登録されている

日本一高くそびえる富士山は、その雄大な姿と神聖さから、古来より信仰の対象となり、また数多くの芸術作品の題材となってきました。火山活動が活発な時代には、自然に対する畏敬の念で麓から山頂を仰ぐ「遥拝（ようはい）」の対象、やがて噴火が鎮まると修験者の「登拝（とうはい）」の場となり、江戸時代以降は「富士講」が流行し、庶民にも富士山信仰が広まりました。また、『万葉集』や北斎の『富嶽三十景』、ゴッホの作品に至るまで、国内外の様々な芸術作品に影響を与えました。その普遍的価値が認められ、2013年に世界文化遺産に登録された富士山は、人々と自然との関わりを象徴する、未来に受け継ぐべき世界の宝です。



■ 富士山本宮浅間大社、北口本宮富士浅間神社

浅間神社は、富士山の噴火を鎮めようとしたことに始まった神社で、全国に1,300社以上あります。富士山麓の富士宮市には、全国の浅間神社の総本宮である富士山本宮浅間大社があり、富士山信仰の中心地となっています。また、山梨県側の富士吉田市には北口本宮富士浅間神社があり、吉田口登山道の起点を成し、江戸中期以降に流行した富士講で多くの信仰者が訪れました。8月26・27日には日本三奇祭のひとつの「吉田の火祭り」が開催されます。両神社は世界遺産の構成資産に登録されています。

両神社には、「木花咲耶姫（コノハナサクヤヒメ）」がまつられます。日本神話に登場する美しい女神で、火の中で3人の男子を産んだことで火山である富士山にまつられるようになったとされます。噴火を鎮めるための火難の神、水の神、安産、酒造、養蚕の神でもあり、富士山麓の信仰と産業に深く結びついています。



写真提供：静岡県観光協会



写真提供：やまなし観光推進機構



写真提供：やまなし観光推進機構

■ 富士講

かつて神聖な禁足地であった富士山は、時代とともに修験者の修行の場となり、やがて庶民の信仰登山へと広がっていきました。その中心的な存在となったのが「富士講」です。富士講は、江戸時代に庶民の間で広まった富士山信仰で、富士に登りたい・拝みたいという願いを持つ人々が資金を出し合い、代表者を登拝させる仕組みを作りました。これにより、遠方の人々でも富士登山が可能となり、富士山信仰は関東を中心に全国へと広がりました。富士講の信仰を支えたのが、富士山北口（現在の富士吉田市）を拠点とする「御師（おし）」の存在です。御師は、登拝者を受け入れる宿坊を運営し、祈禱や教義の指導を行うなど、富士山信仰の発展に重要な役割を果たしました。現在も富士吉田市には御師の町並みが残っており、宿泊可能な宿もあります。

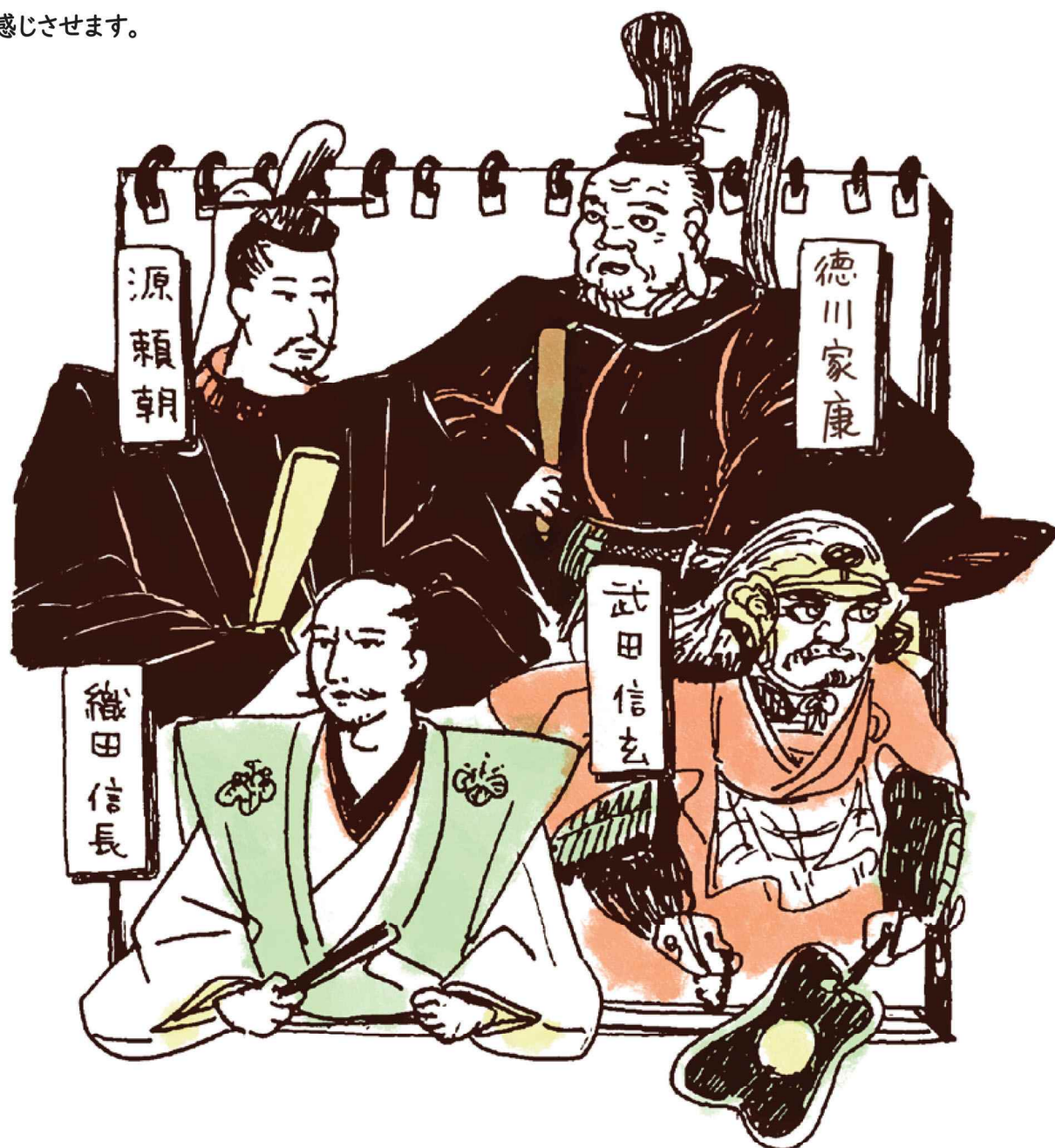
■ 富士を題材とした芸術・文化

- 葛飾北斎『富嶽三十六景』
- 歌川広重『東海道五十三次』
- 横山大観『群青富士』
- ゴッホ『富士山』
- 万葉集、古今和歌集
- 正岡子規『富士のよせ書』
- 太宰治『富嶽百景』
- 新田次郎『強力伝』、『富士山頂』、『芙蓉の人』、『富士に死す』

偉人の足跡

数々の伝説やゆかりの場所から、 誰もが知る歴史の偉人たちの 足跡を辿ることができる

富士山麓には歴史上の偉人たちが多く訪れ、その足跡を残してきました。古くは聖徳太子が黒駒で富士山頂に飛翔したという伝説、源頼朝の「富士の巻狩り」、織田信長が腰かけた「富士見石」、武田信玄が戦勝を祈願し徳川家康も寄進した浅間神社など、数多くの伝説やゆかりの場所が伝わっています。歴史上の人物と富士山の関わりやその舞台が、時代を越えて現代に語り継がれ、歴史のロマンを感じさせます。



■ 富士の巻狩りと源頼朝

富士山麓には、源頼朝が壮大な狩猟を行った「富士の巻狩り」にまつわる伝説と史跡が残されています。

白糸ノ滝には、頼朝が狩りの前に髪を整えたとされる「お鬢水（おびんみず）」が残り、隣の音止の滝は、曾我兄弟が仇討ちを密談した際、滝の音が一瞬止まったという伝説がある神秘的な滝です。頼朝が陣を張ったことにより由来する陣馬の滝付近には、不思議な音を響かせる「太鼓石」が現存します。頼朝が馬を繋いだと伝えられる狩宿の下馬ザクラは、樹齢800年に及び、特別天然記念物に指定されています。



写真提供：静岡県観光協会



白糸ノ滝

写真提供：静岡県観光協会



お鬢水（おびんみず）

撮影：環境省

■ 白糸ノ滝、お鬢水（おびんみず）

富士山の雪解け水が、上部の水を通す地層である新富士火山層と下部の水を通さない地層である古富士火山層の境の絶壁から湧き出しています。高さ20m・幅150mの湾曲した絶壁から、大小数百の滝が流れ落ちる様子は、白糸の名にふさわしい情景です。

1193年、富士の裾野で巻狩りをした源頼朝が、鏡のような美しい水面に顔を映して髪を直したとされる「お鬢水（おびんみず）」があります。また、人穴富士講遺跡で修行をしていた長谷川角行が水行をした場所ともいわれ、富士講霊場の一つにもなっています。

■ 北口本宮富士浅間神社と武田信玄

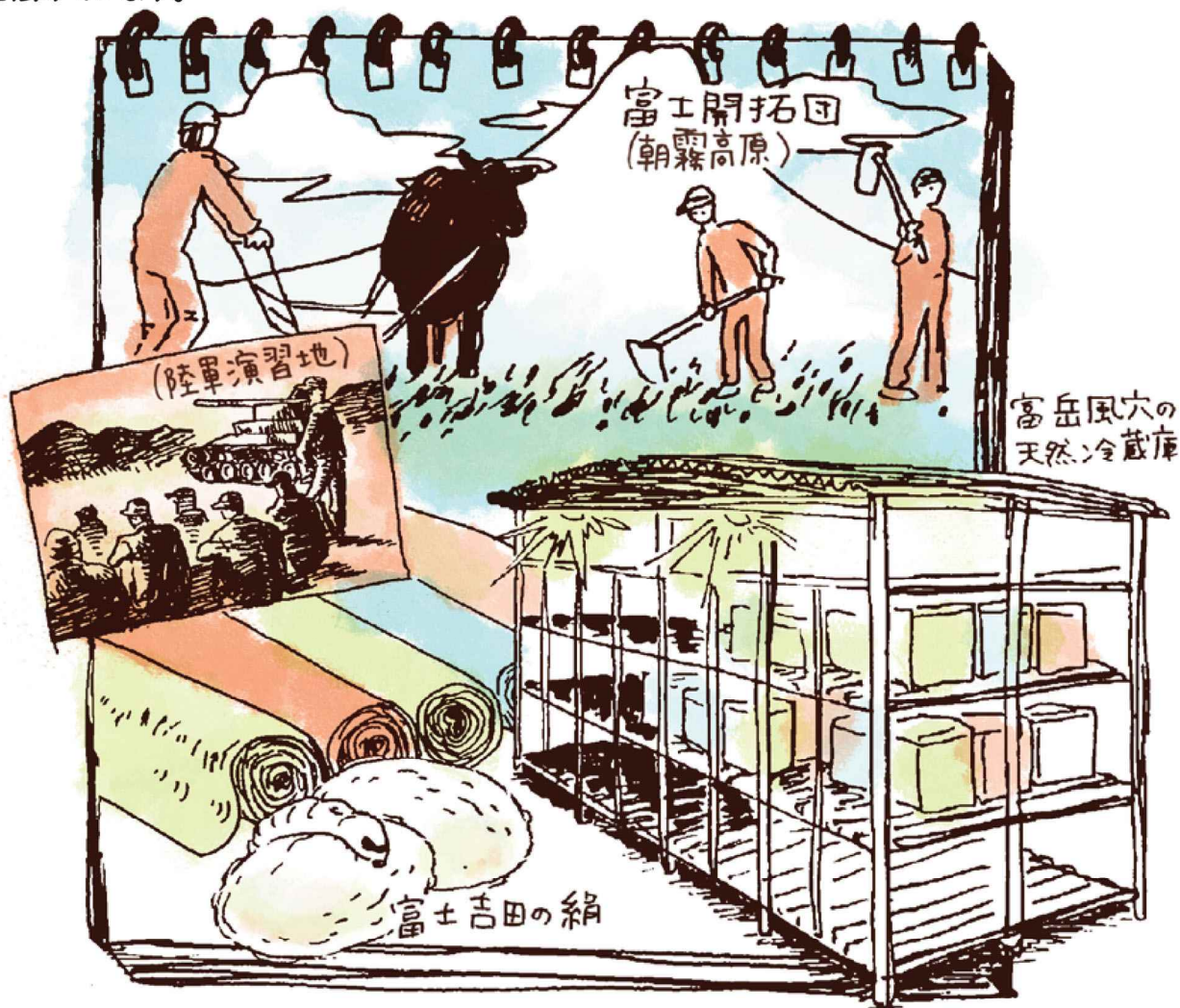
北口本宮富士浅間神社は、富士山信仰の重要な拠点であり、古くから多くの武将にも崇敬されてきました。なかでも武田信玄との関わりは深く、信玄は戦勝祈願のためこの神社に度々参拝したと伝えられています。特に、甲斐の国を守護する神として浅間大神を篤く信仰し、戦の出陣前に祈願を行っていたとされます。現在も、1561年に武田信玄が寄進した東宮本殿が重要文化財として残ります。富士山信仰だけでなく、戦国武将たちの信仰心も刻まれた歴史の舞台と言えます。



写真提供：やまなし観光推進機構

火山灰や溶岩に覆われて痩せた土地でも、 逞しく生活した人々の知恵と工夫が 富士山麓ならではの産業を成長させてきた

富士山麓では、火山灰と溶岩に覆われて痩せた土壌と厳しい寒さの中でも、工夫を凝らし自然資源を活かした産業が発展しました。痩せた土地でも育つ桑を利用した養蚕業では、溶岩洞窟を蚕の卵の保存庫として活用し、出荷時期を調整することで生産量を安定させました。この繭は地域の絹織物産業を支え、富士吉田を富士講の参拝道としてだけでなく物流の中心地として発展させました。朝霧高原では富士開拓団が酪農を発達させ、乳製品の生産が地域の産業の基盤となりました。これらに代表される産業の歴史と文化は今も地域に息づき、観光業と結びついて富士山麓の魅力の幅を広げています。



■ “ハタオリのまち” 富士吉田（風穴・氷穴、甲斐絹、西裏地区）

富士北麓は標高が高く、冷涼な気候や痩せた土壌が稲作などの農業には適さない環境でした。その代わりに、痩せ地でも育つ桑を利用した養蚕業が発達しました。特に、富士吉田は、千年以上にわたって織物の歴史を紡いできた「ハタオリマチ」です。養蚕によって得られた絹をもとに、機織りの技術が発展し、やがて全国有数の織物産地として名を馳せるようになります。

全国から集められた繭は、富士山の噴火によって生まれた溶岩洞窟、「風穴」に貯蔵されました。風穴は年間を通して温度が安定しており、繭の孵化の時期を調整できる天然の冷蔵庫として、生産の安定化に大きく貢献したのです。江戸時代には「甲斐絹（かいき）」と呼ばれる高級織物が生み出され、羽織の裏地として人気を博しました。その美しい発色と繊細な柄は、贅沢を制限されていた江戸庶民の「見えないおしゃれ」として重宝されました。市場は月に何度も開かれ、商人たちで賑わう街の中心地となりました。その一角「西裏（にしうら）」は歓楽街として栄え、織物文化とともに人々の暮らしを彩りました。第二次世界大戦で一時衰退を余儀なくされたものの、戦後には「ガチャマン時代」と呼ばれる黄金期が到来。ひと織りで一万円の利益を生むほどの活況を呈し、全国から織り手が集まりました。男性が家事を担うようになり、腹持ちのよい「吉田のうどん」もこの時代に誕生したといわれています。やがて海外からの安価な織物の流入などにより衰退したものの、現在では、伝統技術を受け継いだ若い世代がオリジナルブランドを立ち上げ、「ハタオリのまち」として再生しました。毎月の「OPEN FACTORY」や秋の「ハタオリマチフェスティバル」などのイベントも人気を集めています。



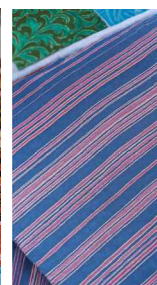
写真提供:やまなし観光推進機構



写真提供:やまなし観光推進機構



写真提供:やまなし観光推進機構



写真提供:静岡県観光協会

■ 朝霧高原

朝霧高原は富士山の西麓に広がる高原です。戦前は陸軍の演習場（陸軍少年戦車兵学校）で、30万坪の敷地に100両近い戦車と自動車類が配備されていました。戦後、開拓団が入植し本格的に開発が行われます。標高が高く冷涼で、霧が多く日照が少なく、保水力に乏しい火山灰土壌という厳しい環境は農業に不向きで、開拓団は厳しい生活を強いられました。しかし、乳牛の飼育には適しており、1954年に乳牛が導入されたことで酪農地として発展しました。現在では、観光牧場もあり、草原を活かしたパラグライダーやキャンプなどのアクティビティも盛んです。

みんなが楽しめる 新旧の多彩なお祭りやイベントが、 地域文化を彩っている

富士山麓では、歴史と伝統を受け継ぐ由緒あるお祭りから新たに誕生したイベントまで、大人も子供も、地域に住む人も観光客も一緒に楽しめる多彩な行事があります。日本三大奇祭である富士山鎮火祭「吉田の火祭り」、源頼朝にゆかりのある富士宮の「流鏑馬まつり」は、重要な伝統行事として全国に知られています。一方で、山中湖の「安産祭り」や河口湖の「稚児の舞」、各地の「道祖神まつり」のように、地域の繁栄を願い地元で大切にされてきたお祭りもあります。



■ 吉田の火祭り

毎年8月26・27日に行われる「吉田の火祭り」は、日本三奇祭の一つとして知られ、北口本宮富士浅間神社と諏訪神社の両社による祭典です。燃え上がる大松明が夜空を染め、町全体が炎の灯りに包まれます。この祭りは、火の神秘と力を讃えるもの。諏訪神社では、戦の際に松明を掲げて勝利を収めた建御名方神の武勇を称え、浅間神社では、炎の中で子を産んだ木花開耶姫命の神話にちなんで、火を焚くといわれています。約400年以上前には祭りが行われていたと考えられ、悠久の時を超えて受け継がれる、火の祭典です。



写真提供:やまなし観光推進機構



写真提供:富士宮市観光協会

■ 流鏝馬まつり

流鏝馬(やぶさめ)は、馬を駆けながら弓で的を射る武芸で、平安時代末期から武士の間で広まり、鎌倉時代には神事としても発展しました。富士山本宮浅間大社の流鏝馬まつりは、建久4年(1193年)、源頼朝が富士の裾野で大規模な軍事演習「富士の巻狩り」を行った際、大社に流鏝馬を奉納したことが起源とされています。以来、武運長久や天下泰平を祈願する神事として800年以上続いています。毎年5月5日に奉納され、的中によってその年の運勢を占うほか、当的や当矢をお守りとする習わしもあります。浅間大社は、世界文化遺産「富士山—信仰の対象と芸術の源泉」の構成資産の一つであり、流鏝馬まつりはその歴史と信仰を今に伝える伝統行事です。

■ ハタオリマチフェスティバル

織物の町・富士吉田市で毎年秋に開催されるイベントです。地域に根ざした産業「ハタオリ=機織り」の魅力を発信するため、2016年から開催されています。かつて甲斐絹(かいき)などの高級織物で全国に名を馳せたこの地では、今も200を超す系にまつわる会社や工場があり、フェスティバル当日には機織りの職人技や美しい生地 directly 触れることができます。会場では、地元の工場が手がけたオリジナル製品の販売、機織り体験、ワークショップなどが行われ、子どもから大人まで楽しめる内容が盛りだくさんです。



写真提供:やまなし観光推進機構

麺料理

場所も時代も成り立ちも異なる 各地の麺料理が、 人々の日々の暮らしと胃袋を支えている

稲作に不向きな痩せた土地が広がる富士山麓では、小麦を中心とする食文化が育まれてきました。戦国時代、武田信玄のもとで戦メシとして親しまれた『ほうとう』、織物が盛んな富士吉田市で織り手の女性を支えるため男性が打ったコシの強い『吉田のうどん』、街の駄菓子屋で製糸工場の女工たちに愛されたもちもちと弾力のある『富士宮やきそば』は、それぞれの地域で暮らしと文化を支えてきました。地元で愛されたこれらの料理は、今も人々の胃と心を満たし、観光客にも愛される地域の名物です。



■ 吉田のうどん

吉田のうどんは、山梨県東部の郡内地方の郷土料理です。富士山の北麓は冷涼な気候と水持ちの悪い土壌から稲作に向かず、古くから麦作が行われ、粉食文化が浸透していました。また、富士山北麓地域は古くから養蚕業・絹織物産業が盛んで、機織りをする女性に代わって男性が厨房に立ち打ったうどんが吉田のうどんの始まりとされ、機織りの文化とも結びついた名物です。麺が固いこと、馬肉やキャベツを用いることが多いことなどが、吉田のうどんの特徴です。



写真提供:やまなし観光推進機構

■ ほうとう

ほうとうは、山梨県の郷土料理で、太く平たい麺やカボチャなどの野菜が入っていること、味噌で味付けされることなどが特徴ですが、地域によってさまざまな形態があります。ほうとうは、甲斐国で養蚕が広まったことによる田の集約化に起因し、米と麦の二毛作が一般的となったことから広まった粉もの料理の一種です。また、甲斐国の戦国武将武田信玄は、陣中食としてほうとうを食べていたとも伝えられ、古くから甲斐の人々に愛されています。



■ 富士宮やきそば

富士宮やきそばは、蒸した麺や肉かすなどが特徴の焼きそばで、富士宮市のB級グルメです。戦後の食糧難の時代、お好み焼き屋や鉄板を備えた駄菓子屋が焼きそばを提供しており、製糸工場の女工や満州から復員した兵士たちに広まりました。1990年代後半以降、富士宮市で親しまれていた焼きそばが「富士宮やきそば」と命名され、焼きそばを使った町おこしが進められました。「富士宮やきそば」は富士宮市のB級グルメとして全国的に有名になり、今でも地域の人や観光客から愛されています。



撮影:環境省

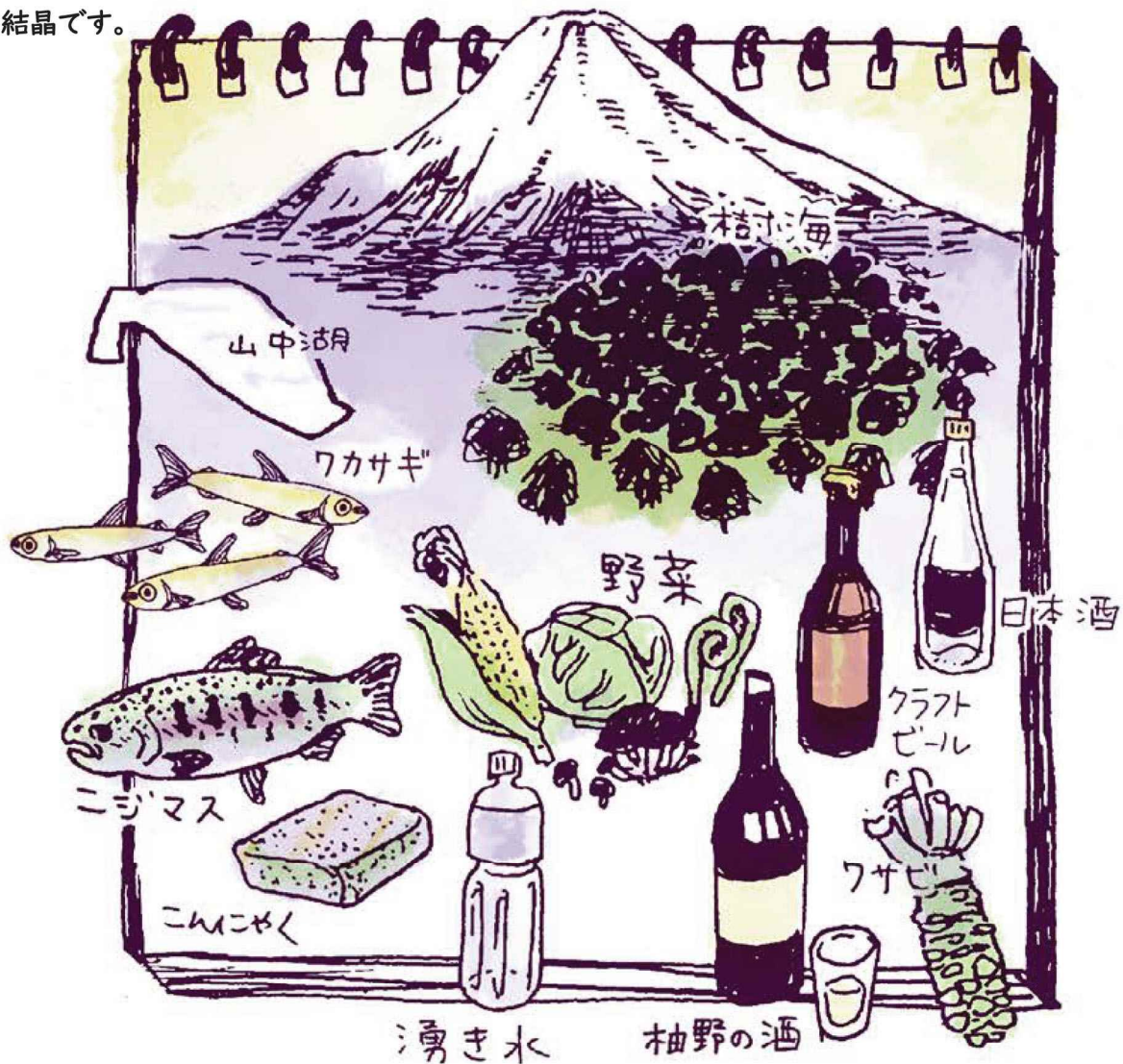
3-2

富士山麓ならではの価値-3：富士山麓の食の恵み

食材

寒く痩せた土地の中でも、 伏流水や山の食材を活かして育まれた 森・山・湖の様々な特産品がある

富士山麓の土壌は、火山灰と溶岩に覆われて痩せた土地であると共に、標高1,000メートル近い冷涼な気候条件で農耕には厳しい環境でした。人々は、山や森の資源を頼りにし、豊富な伏流水を活かした食文化を育んできました。山菜やキノコ、野草は地域の生活を支える重要な資源であり、江戸幕府御用達の薬草の産地もありました。富士山の伏流水で育つニジマスやワサビ、山中湖の公魚（わかさぎ）も特産品として親しまれています。伝統的な日本酒づくりやクラフトビール、鳴沢菜や煮貝、こんにゃく、芦川（あしかわ）の切り干し大根など、地域ごとに特色ある食材があります。これらは、富士山麓の自然と共に生きる人々の知恵と工夫の結晶です。



■ 猪之頭のワサビ

富士山麓で湧水が豊富な場所では、ワサビの栽培が盛んです。ワサビの栽培には綺麗な水が必要不可欠ですが、富士山の地下に浸み込んで湧き出る綺麗な湧水が豊富であるため、ワサビの栽培に適しています。ミネラルを多く含んだ水のもとですっきりとした辛さになることが、富士山周辺のワサビの特徴です。御殿場や富士宮など、富士山周辺の様々なところで富士山の伏流水を利用したワサビの栽培がおこなわれており、蕎麦や寿司などととも味わうことができます。



撮影：日本工営



撮影：環境省

■ 猪之頭のニジマス・山梨の富士の介

富士宮市の猪之頭地区では、富士山の湧水を利用したニジマスの生産が盛んで、富士宮市は生産量日本一です。猪之頭地区には静岡県水産試験場富士養鱒場があり、マス類の養殖に関する研究もおこなわれています。富士山の湧水は、ミネラルを多く含んでおり、また水温が安定しているため、養殖に適しています。

また、山梨県では忍野村にある山梨県水産技術センターが「キングサーモン」と「ニジマス」を交配し開発した「富士の介」が生産されています。

どちらも、フライ、刺身、カルパッチョ、なめろう、塩焼きなど様々な方法で楽しむことができます。

■ 公魚（わかさぎ）

公魚（わかさぎ）は、透き通るような銀白色の体を持つ小さな淡水魚で、日本では古くから冬の味覚として親しまれてきました。「公の魚」と書く由来は、かつて将軍家に献上されていたからともいわれ、上品な味わいと季節感を持つ魚として人々に愛されています。釣ったばかりのわかさぎは、天ぷらや唐揚げにしてその場で味わうのが醍醐味です。

山中湖をはじめとする富士五湖で味わうことができる地元の冬の味覚です。



3-3

富士山麓ならではの価値-3：富士山麓の食の恵み

畜産とジビエ

畜産や狩猟・ジビエが、日常では学べない
「生と死」、「命をいただく」ことを
私たちに教えてくれる

富士山西麓は畜産が盛んで、雄大な富士山を背景に広大な牧草地と牛などの動物がのびのびと過ごす牧歌的風景が広がっています。かつてこの地は陸軍の演習地でしたが、戦後は開拓団が痩せた土地を耕し、今では命を育む場所に生まれ変わりました。また、富士山麓の山林では、増えすぎた野生動物による森林や農作物への被害が深刻化し、適切な頭数管理のため狩猟が行われています。ジビエは、その副産物として命を無駄にせず、食材として活かすものです。「感謝して命をいただく」ことを学ぶリアルコンテンツの宝庫です。



■ 富士山麓の獣害

自然に囲まれた富士山麓では、近年、シカやイノシシによる被害が深刻化しています。シカが若木や樹皮を食べ尽くし、再生が進まず森林荒廃が進行。山梨県内では2022年度の森林被害は23ヘクタール、約6千5百万円、農作物被害の被害額は約1億4千万円に上りました。そのうちシカによるものが約3千2百万円を占めます。こうした状況を受けて、富士北麓や富士宮などの猟友会を中心に捕獲が進められていますが、担い手不足が大きな課題となっています。山梨県内の狩猟免許保持者は2023年度で3,592人ですが、その半数が60歳以上。富士五湖猟友会でも会員の高齢化と減少が深刻で、次世代の担い手確保が急務です。

自然と人のバランスを保ち、生態系の維持と人々の暮らしを守るため、地域全体で取り組みが進められています。



写真提供: ホールアース自然学校



撮影: 環境省



写真提供: ホールアース自然学校



写真提供: ホールアース自然学校

■ 富士山麓のジビエ文化と教育

野生動物の捕獲が進む一方で、これまで富士山麓にはジビエを処理・活用する施設が少なく、多くは埋設・焼却されていましたが、2023年に富士吉田市がジビエ加工施設「DEAR DEER (ディアディア)」を開設しました。これにより野生動物を衛生的に解体・加工し、飲食店や直販で提供できる体制が整い、猟師の収益や意欲の向上にもつながっています。また、皮を商品化することで、命を余すことなく活用する意識も広がっています。また、命の重みを学ぶ場として日常では学びにくい“生と死”に向き合い、捕獲から解体、調理、消費までのプロセスを示し、自然の恵みへの感謝や人と獣の関係を深く考える体験が用意されています。

富士山麓にはその他にもジビエ加工施設があり、精進湖・本栖湖の飲食店では「鹿カレー」が提供し、ジビエの普及に取り組んでいます。

■ 朝霧高原での酪農体験

富士山の西麓に広がる朝霧高原も、富士山を見ながら命の大切さを学べる場所です。冷涼な高原地帯で、農業に不向きな痩せた火山灰土を克服し、酪農によって開拓・発展してきた地域です。富士山を背景として広がる牧歌的風景や、広大な牧草地に放牧された牛などの動物たちとふれ合える酪農体験が人気です。搾乳やエサやり体験の他、新鮮な牛乳やチーズ、ヨーグルトを味わうこともできます。その他にも、道の駅朝霧高原などで、地域で生産された新鮮な鶏卵、豚肉、ハムやソーセージなどを購入することもできます。



写真提供: 静岡県観光協会

雄大な富士山の麓では、陸も水も空も、 すべてが体験の舞台となり、体験したからこそその ワクワクとドキドキが一生の思い出となる

富士山麓は、都心からのアクセスが良く、多くの人を訪れる観光地だが、一步踏み入れると静かな自然が広がります。このエリアには、富士山と共に暮らしてきた人々の営みもあります。富士山の包容力と同様に陸・水・空で、富士山を満喫したい人々のニーズに応えられる多様な旅の仕方が富士山には揃っています。

〔陸編〕

富士山麓には、東海自然歩道をはじめとする多くのトレイル（歩く道）が広がり、四季ごとに異なる富士山の姿とともに、樹海の深い森に差し込む光や、苔むした溶岩のキラキラとした輝き、野鳥のさえずりに触れることができます。古くからの信仰や文化をたどりながら、その土地の食を味わい、キャンプ場やペンションなどで泊まりながら人々と交流できるのも魅力の一つです。楽しみ方は、『歩く』『走る』『サイクリング』『乗馬』『洞窟探検』など様々です。

〔水編〕

富士山の豊かな水をたたえる富士五湖や田貫湖、桂川では、高所ダイビングやSUP、カヌー、釣りなど、感情を揺さぶられるウォーターアクティビティが目白押しです。本栖湖は高所淡水ダイビングができる日本でも数少ない湖で、その透明度と水深の深さに吸い込まれるように魅了されます。水面から見上げる富士山は、陸上からとは異なる表情を見せ、普段とは違った視点でその雄大さを感じられます。湖上や川の流れに身をゆだねる中で、陸からでは気づけない新たな発見や感動があり、富士山麓の魅力をさらに深く感じさせてくれます。

〔空編〕

富士西麓の朝霧高原周辺は、駿河湾から吹き込む海風のおかげで日本有数のフライト確率を誇るパラグライダーの聖地です。忍野村では、ハンググライダーや遊覧ヘリで、まるで鳥になったかのような目線で富士山を体験できます。空中から望む富士山は、その雄大さと裾野に広がる自然の美しさが一層際立ちます。





■ 東海自然歩道を歩く

富士山と言えば、夏の富士登山のイメージが強いですが、山麓には富士山を見ながらトレッキングをできるトレイルが広がっています。日本初の長距離自然歩道として1974年に整備された東海自然歩道もその一つです。富士山麓は、全ルートの中で唯一国立公園を通る高指山付近～天子ヶ岳付近まで約70kmの変化に富んだルートです。富士山頂を目指さずとも、湖や樹海、高原、里山といった多彩な自然や文化と共にその雄大な姿を感じられる「富士山麓を歩く旅」は格別です。

〔湖と富士山の眺望（山中湖）〕

東海自然歩道上には、湖と富士山を同時に楽しめるスポットが数多くあります。富士五湖の中で富士山に一番近い山中湖畔の平尾山～大平山間の眺望は迫力満点。遠くには南アルプスも望め、富士山を眺めながらの爽やかなプチ縦走が味わえます。

■その他のおすすめのスポット

- 三湖台：視界に広がる樹海は必見。湖は3つ見える？
- 長者ヶ岳：大沢崩れが真正面。足元には田貫湖



撮影：環境省

〔富士山の展望（朝霧高原）〕

富士山の周辺を巡る東海自然歩道では、季節や角度で表情が変わる富士山に様々な場所で出会えます。お気に入りを見つけるのも「歩く旅」の楽しみの一つです。朝霧高原のススキ草原や牧場越しの富士山は、富士北麓側とは異なる伸びやかな風景です。

■その他のおすすめのスポット

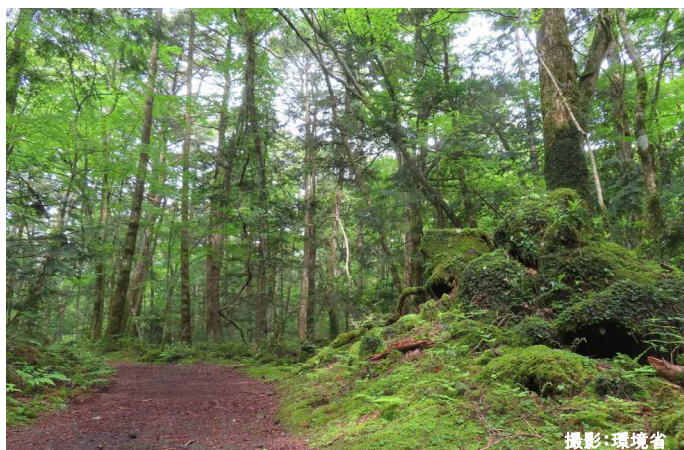
- 花の都公園：四季折々の花と富士山の共演
- 富士吉田新屋付近：田んぼに映る逆さ富士



撮影：ホールアース自然学校

〔森を抜ける（青木ヶ原樹海）〕

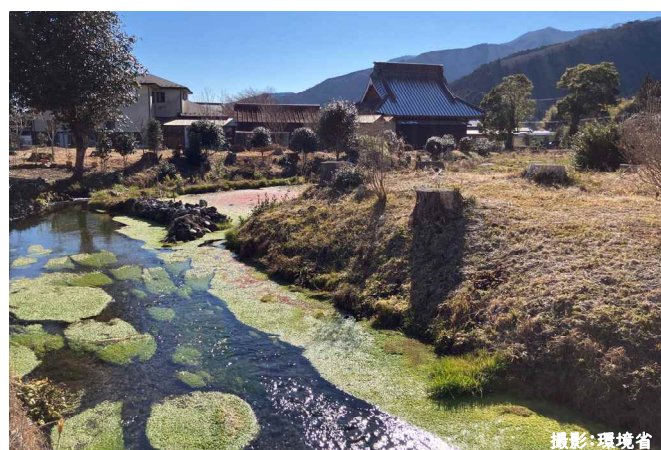
富士山麓に広がる青木ヶ原樹海。森の中に続くトレイルに一歩足を踏み入ると、静けさの中、樹々に包まれ心が癒されます。足元の苔むした溶岩や曲がりくねった根に森の歴史と生命の力強さを感じます。



撮影：環境省

〔里山風景（猪之頭の里）〕

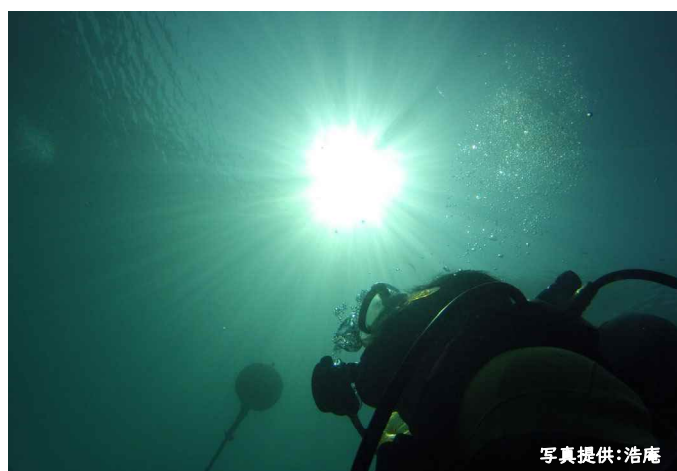
東海自然歩道の富士山麓エリアには、湖や山だけでなく、人と自然が寄りそう里山風景も広がります。猪之頭の里では町中を流れる湧水の心地よい音が耳に響きます。地域の人との触れ合いも「歩く旅」の醍醐味です。



撮影：環境省

■ ダイビング（本栖湖）

標高約900mにある本栖湖は日本でも数少ない高所淡水ダイビングが楽しめる湖です。透明度が高くダイビングの聖地とされており、多くの人に親しまれています。水中では、淡水魚や溶岩帯や沈木、水草など海でのダイビングとは全く異なる体験をすることができます。



写真提供：浩庵

■ カヌー、カヤック、SUP

富士五湖や田貫湖では、カヌーやカヤック、SUP（スタンドアップパドル）を気軽に楽しめます。ツアーに参加すれば、地元ガイドの案内で安心して水上散歩が可能です。河口湖では、富士五湖唯一の島・鵜ノ島へカヌーで渡れます。精進湖はカヌー競技が盛んで、大会や練習風景が見られます。西湖や本栖湖では、より水を近くに感じるSUPが人気。どのアクティビティも、湖面から仰ぐ富士山の眺めは、地上とは異なる特別な感動を与えてくれます。



撮影：環境省

■ 釣り

田貫湖では、ヘラブナが放流されており、手軽にヘラブナ釣りを楽しむ人を多く見かけます。また、忍野村の桂川では、フライフィッシングが盛んに行われており、スプリングクリーク（湧水の川のこと）での釣りを満喫できます。富士宮の猪之頭では養殖されているニジマスの釣り、西湖ではヒメマス釣りを体験できます。

その他にも、富士五湖ではワカサギ釣りが人気です。



撮影：日本工営都市空間

■ パラグライダー（朝霧高原）

富士西麓の朝霧高原周辺は、駿河湾から吹き込む海風のおかげで日本有数のフライト確率を誇るパラグライダーの聖地で、日本大会や世界大会も開催されています。初めての方でも空の旅を体験できるスクールが複数あります。富士山を眺めながらの飛行体験は、他では味わえない貴重な体験です。

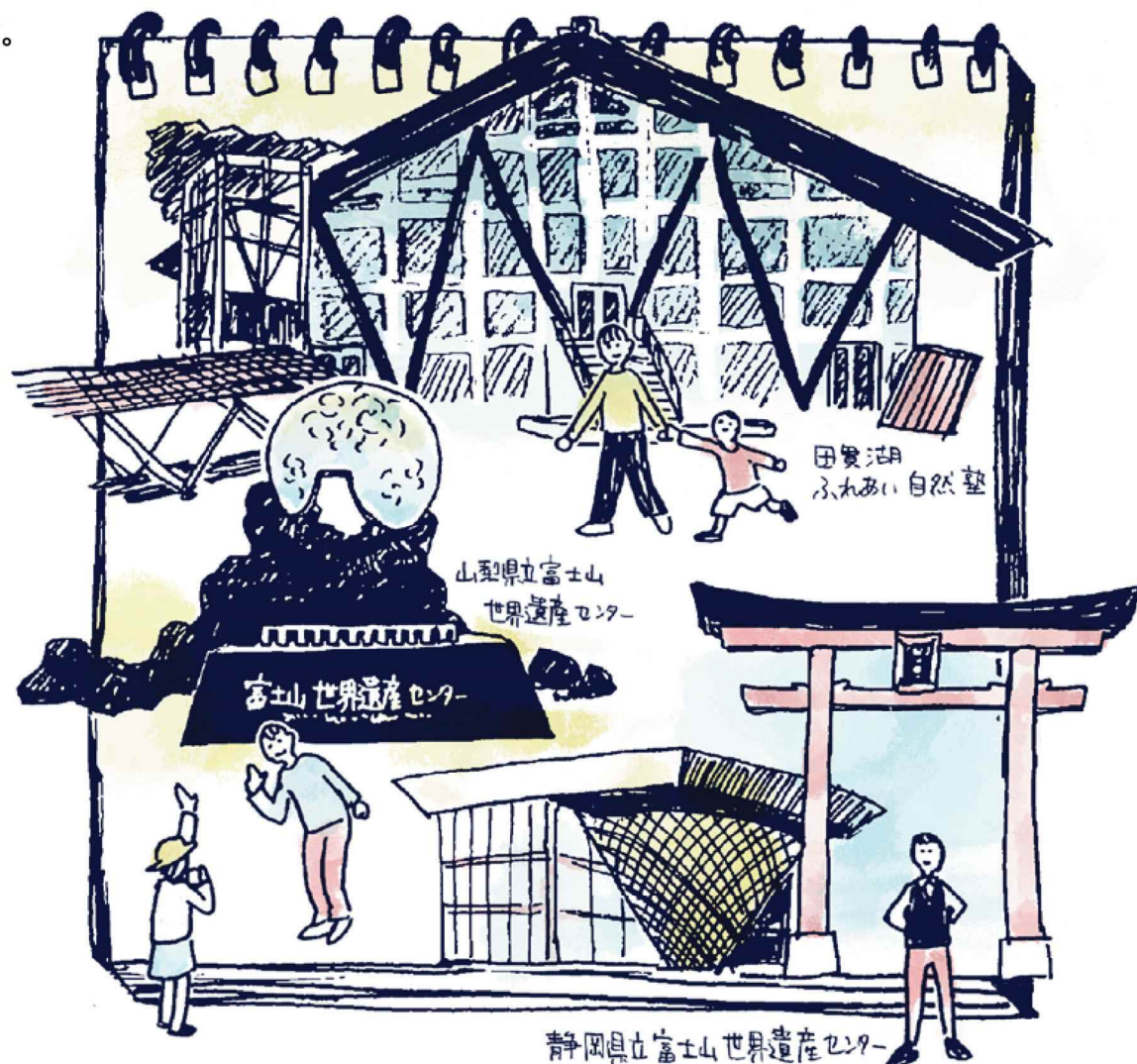


写真提供：大塚 祐介

研究・教育施設

感動と学びを提供する 多様な施設が、 富士山麓の旅を豊かにする

壮大な自然と豊かな文化を背景に、多様な施設や公園が訪れる人々を迎えてくれます。富士山の自然や歴史、文化について学べる博物館や美術館、環境省の自然学校第1号「田貫湖ふれあい自然塾」、「生物多様性センター」のような体験・展示施設から、山梨県の富士山科学研究所や東京大学の富士癒しの森研究所といったアカデミックな施設、動物と触れ合える牧場まで、様々な施設が数多く集まっています。これらの施設では、深い知識や感動を得る学びの場だけでなく、アートやレジャーを楽しみ、富士山麓の豊かな自然の中で心身を休める時間を提供します。知る、学ぶ、楽しむ、そして癒される富士山麓の旅を豊かにする場所です。



■ 田貫湖ふれあい自然塾

田貫湖ふれあい自然塾は、2000年に環境省の自然学校第1号として開設された体験型施設です。富士箱根伊豆国立公園の富士宮市内に位置し、「自然と人、人と人とのふれあい」をテーマに、専門スタッフによる自然解説展示や体験プログラムを提供しています。宿泊コテージも併設されており、朝、昼、夜の富士山を眺めながらの滞在を楽しめます。



■ 富士山世界遺産センター

富士山の自然・文化・歴史を深く知ることができる拠点として、山梨県と静岡県の両方に「富士山世界遺産センター」が設置されています。富士山が「信仰の対象と芸術の源泉」として世界文化遺産に登録された背景や、その価値を伝える展示を行い、多角的に富士山の魅力を発信しています。両施設では、富士山の成り立ちや噴火の歴史、登山文化、さらには四季折々の富士山の姿や、信仰・文化と結びついた歴史を映像や展示で学ぶことができます。

それぞれのセンターには、独自の特徴を持つ展示や体験スペースがあり、よりリアルに富士山を感じることができます。富士山の魅力をより深く理解し、訪問の前後に学びを深めるのに最適な施設です。

■ 環境省生物多様性センター

富士山北麓に位置する環境省の生物多様性センターは、近年の環境破壊や乱獲により、急速に失われつつある生物多様性、そして日本のかけがえのない自然の大切さを分かりやすく伝える施設です。全国 of 自然環境を調査し、その成果を蓄積・発信するだけでなく、日本の生物多様性の保全を推進し、世界の環境保全にも貢献する役割を担っています。館内では、標本や映像シアターを通じて日本の自然や生態系について視覚的に学ぶことができます。また、図書資料閲覧室も備えられており、専門的な情報を調べることも可能です。



来訪者分析

調査概要

■ アンケート調査

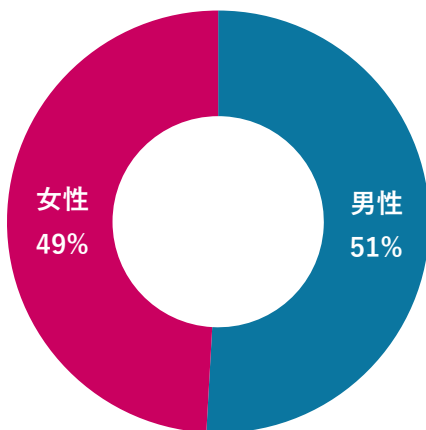
- 調査目的: 富士山麓地域の利用者の利用動態、ニーズや意向を把握する
- 方法: 東海自然歩道のルート及び周辺主要施設に協力頂き、据え置き形式、対面形式、web形式を併用して実施
- 実施場所: 山梨県立富士山世界遺産センター 田貫湖ふれあい自然塾、富岳風穴、三湖台等
- 期間: 2024/10/26～2024/12/27
- 回収部数: 196部

■ 位置情報ビッグデータを用いた人流分析

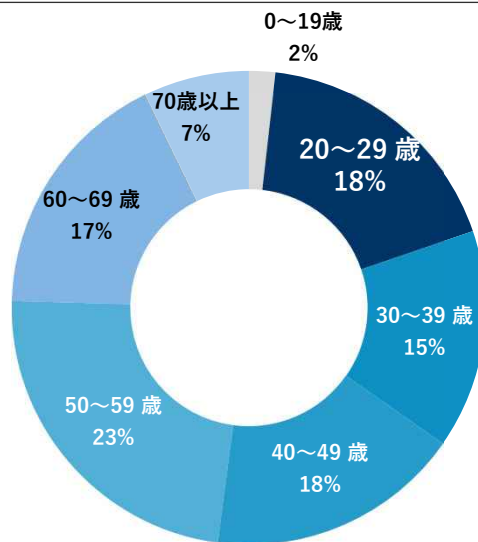
- 目的: 富士山麓地域の利用状況、人流を把握する
- 方法: 位置情報ビッグデータ「KDDI Location Analyzer」を使用し、KDDIの保有するGPS位置情報と契約情報から、来訪者やその属性を分析
- 集計対象期間: 2023/12/1～2024/11/30

来訪者層 (アンケート調査)

■ 性別 (N=167)



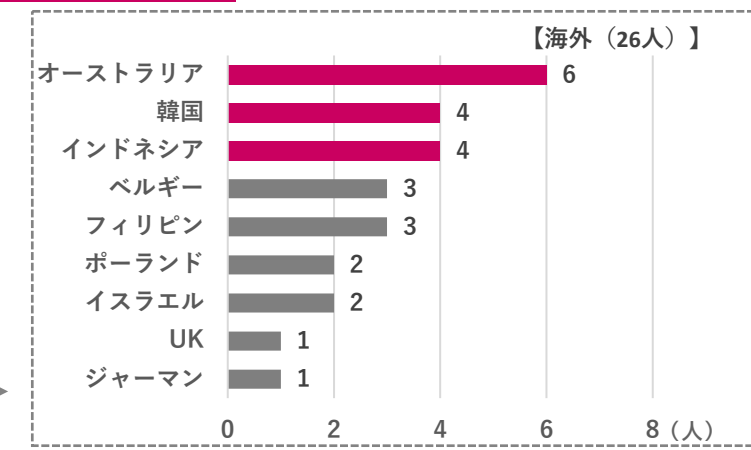
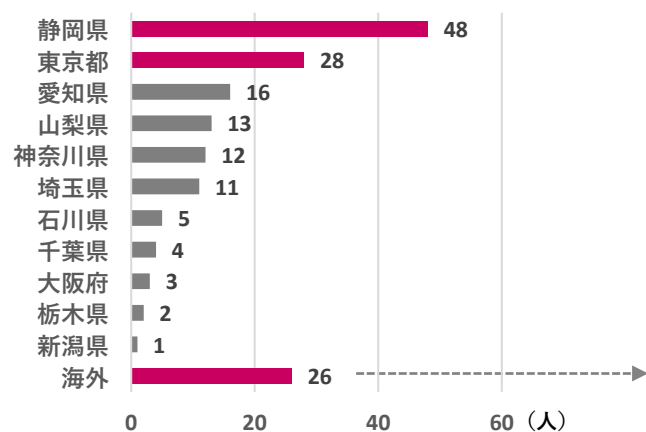
■ 年齢 (N=167)



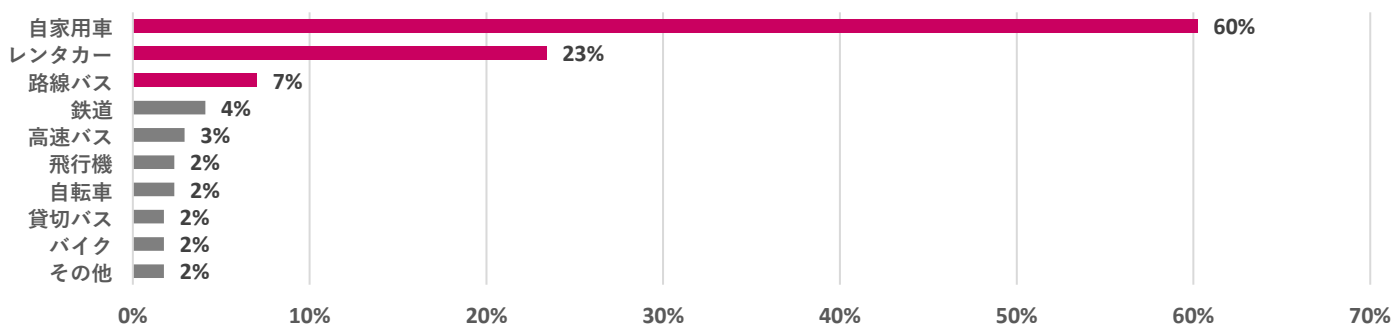
■ 居住地 (N=169)

静岡県¹の来訪者が最も多く、次いで東京都²、海外³からの来訪者が多い

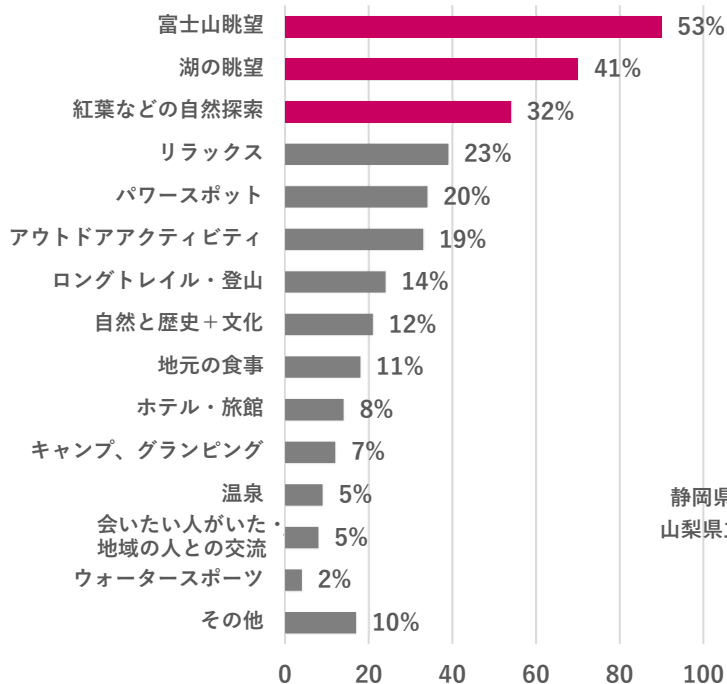
海外からの来訪者は総数が少ないが、その中ではアジア⁴、オーストラリア⁵からの来訪が見られた



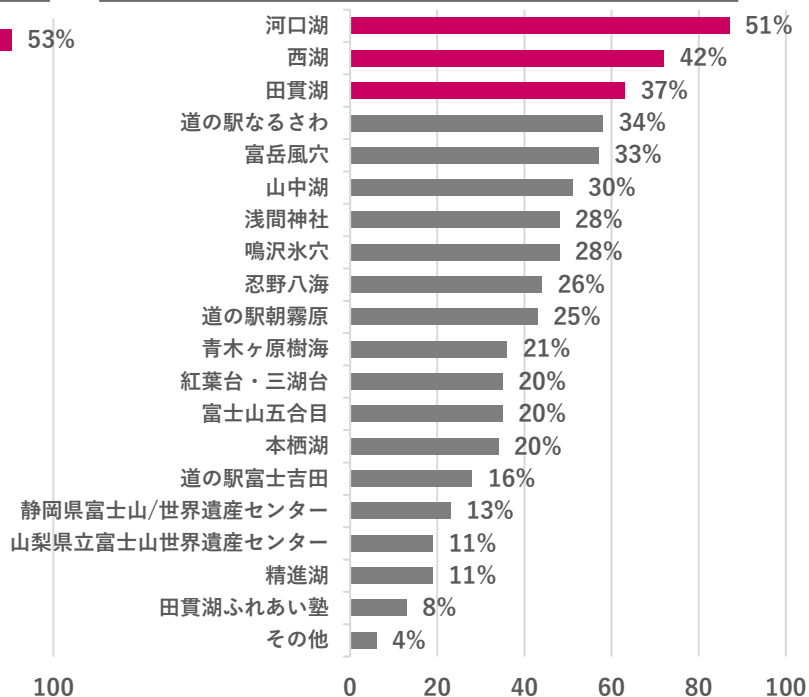
■交通手段 (N=171)



■来訪目的 (N=171)

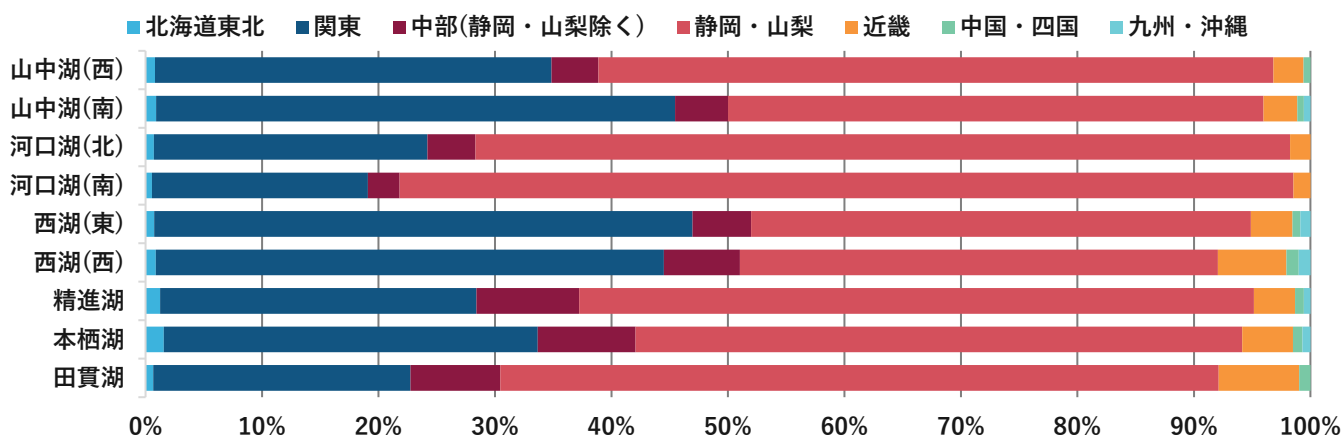


■訪問した場所 (N=171)



湖ごとの来訪者の居住地 (人流分析)

河口湖や精進湖、田貫湖は地元の静岡・山梨からの来訪者が多い一方で、山中湖や西湖は関東からの来訪者も多い傾向が見られた



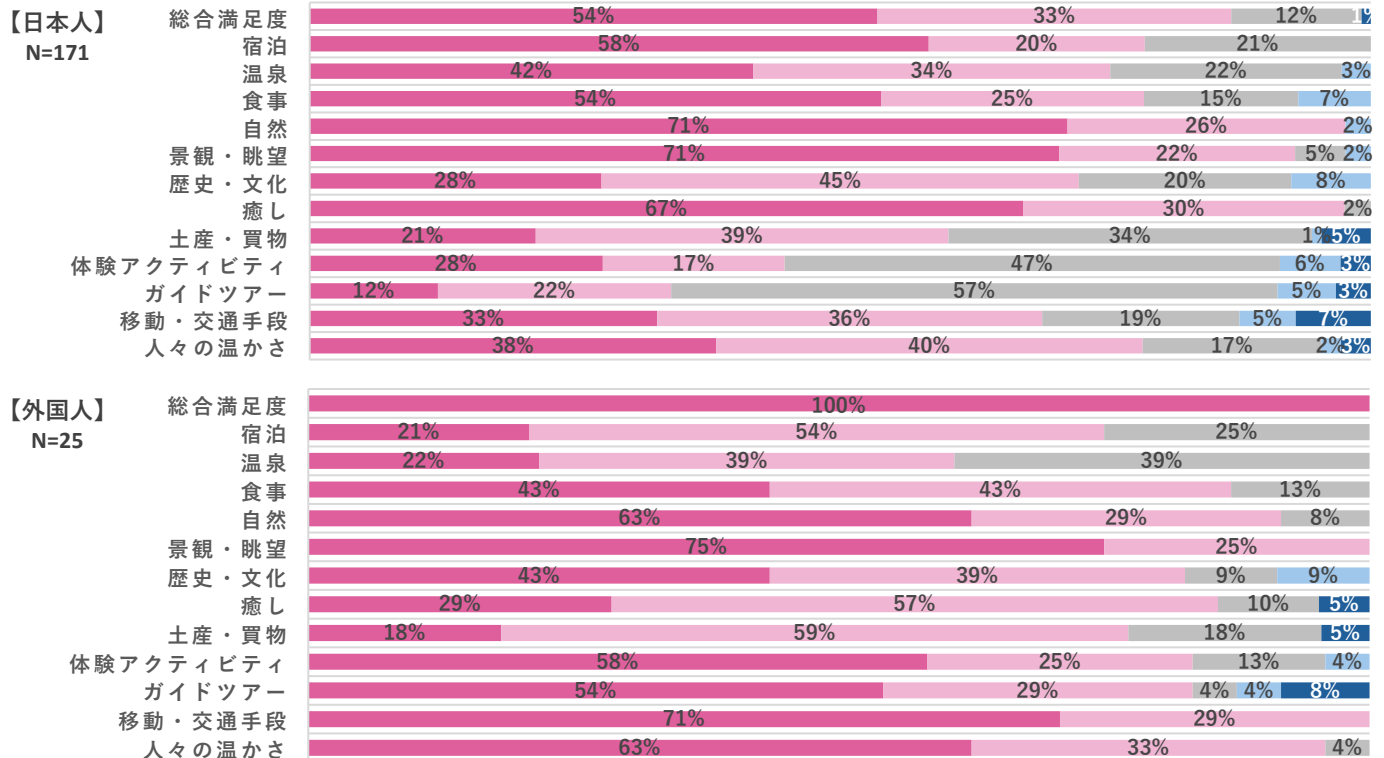
来訪者分析

東海自然歩道の旅ナカ満足度（アンケート調査）

土産・買物、体験アクティビティ、ガイドツアーの満足度はやや低い

日本人と比べると外国人の食事、歴史・文化の満足度は高い

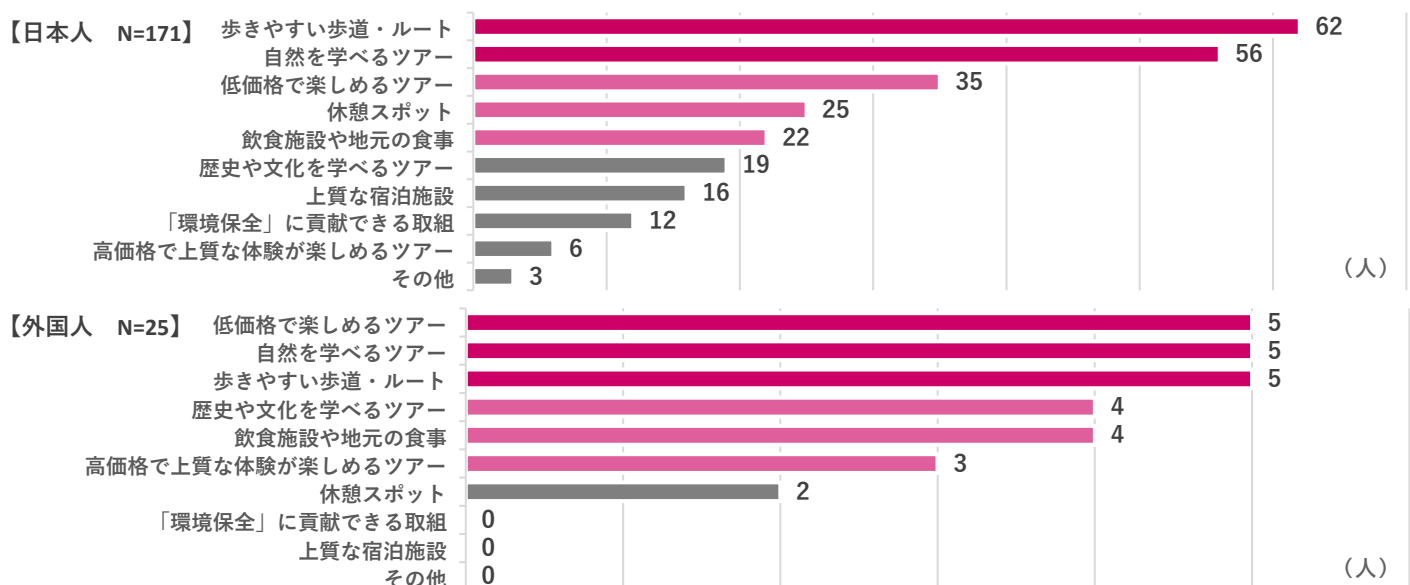
■とても満足している ■やや満足している ■どちらでもない ■あまり満足していない ■全く満足していない



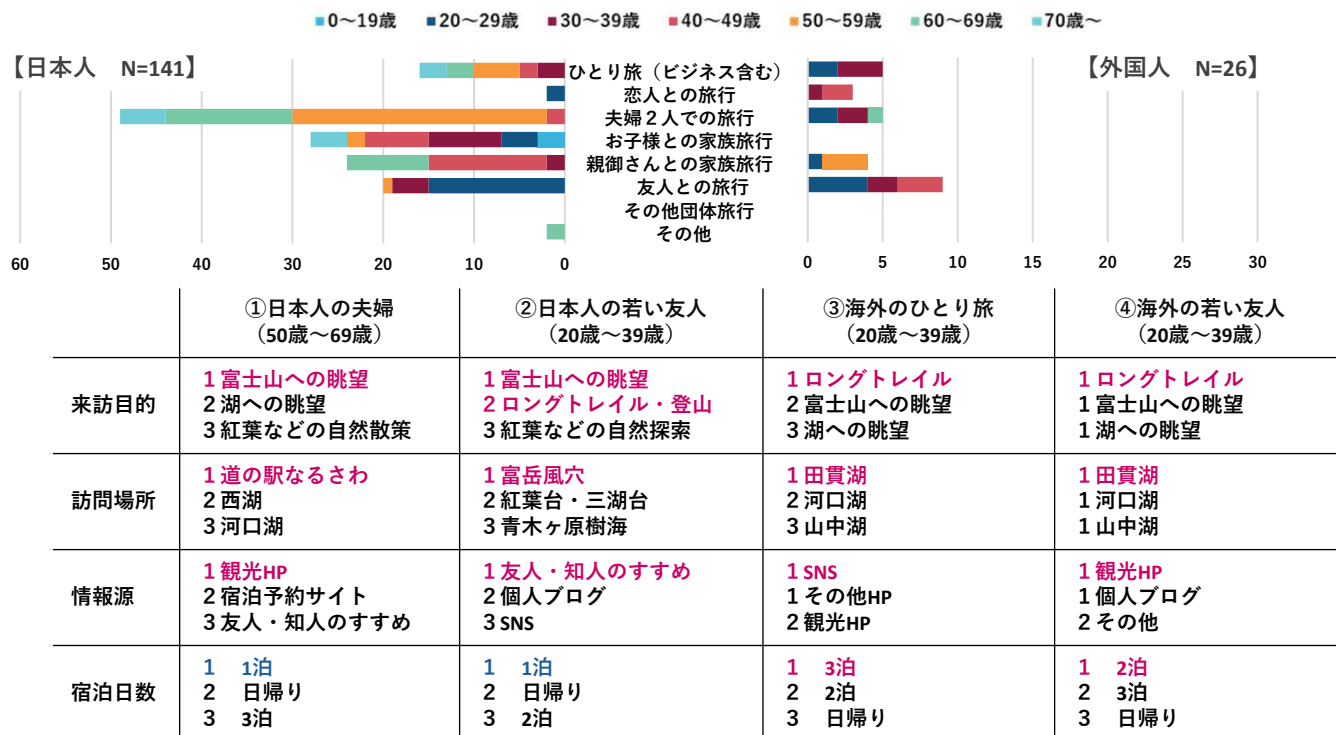
東海自然歩道にどんなコンテンツが欲しいか（アンケート調査）

日本人は自然を学ぶツアー、歩きやすいルートのニーズが高い

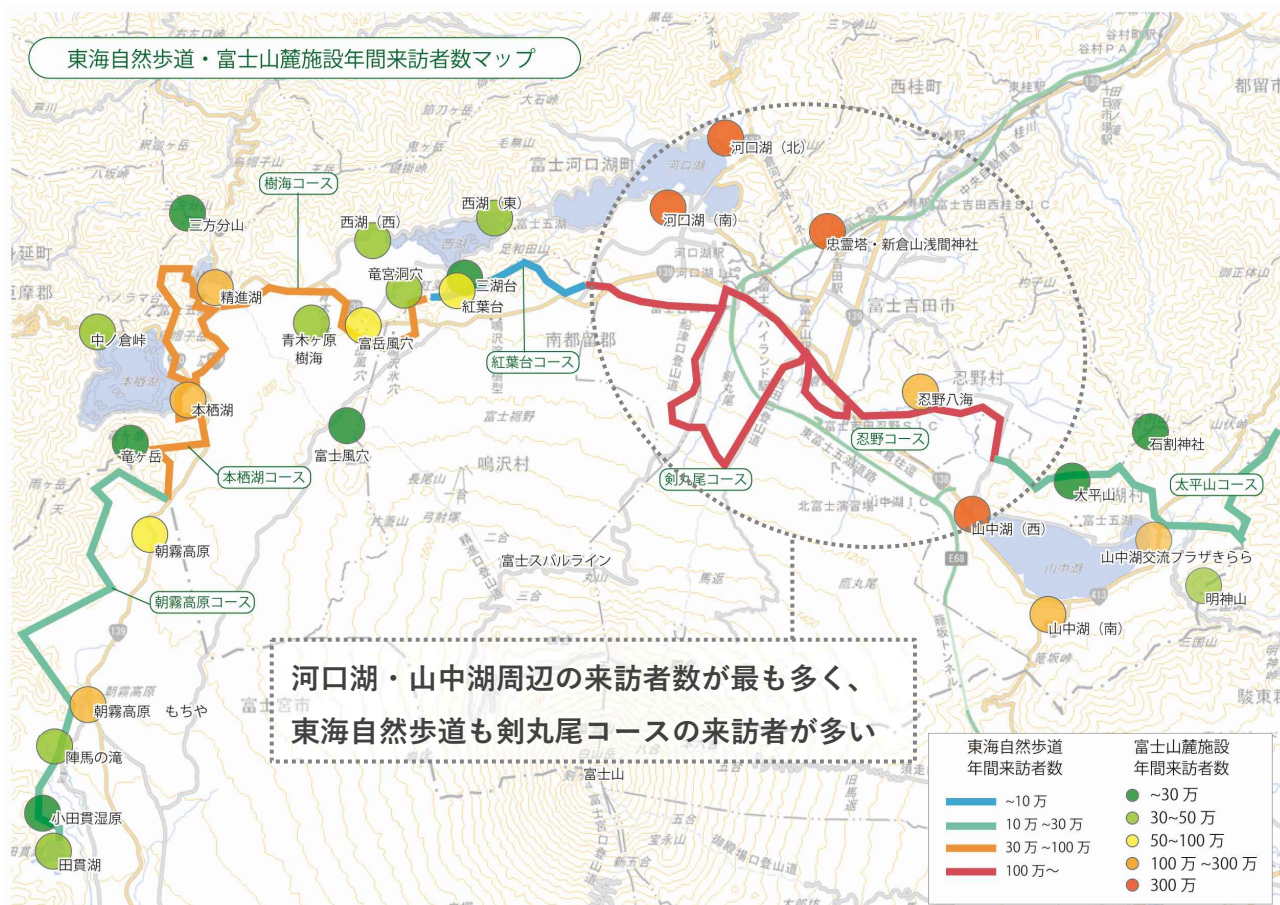
外国人は自然を学ぶツアー、低価格ツアー、歩きやすいルートのニーズが高い



東海自然歩道（富士山麓地域）の利用者層と利用形態（アンケート調査）



富士山麓の来訪者数（人流分析）



インタープリテーションメディア

	メディア・プログラム	概要 (営業時間・内容・費用など)	問い合わせ先	詳細は こちら
ガイド ツアー	日本人の自然観や文化に影響を与えてきた富士山を知る「樹海ネイチャーツアー」	【時期】春(3~5月)、夏(6~8月)、秋(9~11月)、冬(12~2月) 【所要時間】約3時間 「青木ヶ原樹海」の原生林で神秘的な森や洞窟の絶景を体験。現地ガイドの案内で日本人の自然観や文化に触れます。	富士山登山学校 ごうりき ☎0555-24-1032	
	富士五湖で一番きれいな本栖湖で、水上散歩を楽しもう!	【時期】春(3~5月)、夏(6~8月)、秋(9~11月) 【所要時間】約120分 透明度抜群の本栖湖をカヌーに乗って楽しむ体験プログラム。SUPのツアーや、ウインドサーフィン、ウイングフォイルのスクールも開催してます。	本栖湖アクティビティ センター ☎080-8746-8622	
	富士山まるっと外遊び	【時期】春(3~5月)、夏(6~8月)、秋(9~11月)、冬(12~2月) 【所要時間】半日プログラム 90分~150分 富士山エリアで湖、山、森、洞窟、クラフトなど様々なコンテンツを体験しながら楽しもう!オンリーワンオリジナルプログラムをお楽しみください	富士山アウトドア ミュージアム ☎0555-72-3902	
	御中道トレッキング 天界と地界の境をめぐる信仰の道	【時期】夏(6~8月)、秋(9~11月) 【所要時間】往復コース 2時間 富士山信仰において天と地の境とされた聖なる道、御中道。過酷な環境を生き抜く植物のしたたかな意志と、富士の峰にこめた古人の祈りを体感するトレッキング。	株式会社フーディニ ☎03-6869-4212	
	富士山の自然と里山の息吹を体感するラグジュアリーキャンプ×エコツアー	【時期】春(3~5月)、夏(6~8月)、秋(9~11月)、冬(12~2月) 【所要時間】1泊2日:Check in 15:00、Check out 11:00 四季折々の富士山と里山の景色を満喫できるラグジュアリーキャンプとエコツアー体験。Sustainable Tourismをテーマとした様々なエコツアーを通じて富士山の自然・文化を楽しめます。	MT. FUJI SATOYAMA VACATION ☎0544-66-5722	

	メディア・プログラム	概要 (営業時間・内容・費用など)	問い合わせ先	詳細は こちら
ガイド ツアー	「水の都」猪之頭湧水の 恵み満喫プログラム	【時期】春(3~5月)、夏(6~8月)、 秋(9~11月) 【所要時間】約240分 清らかな湧水の里で地域の人々が用 意した里山プログラムを体験。わさび 田や養鱒場など当地ならではの産業 も見どころです。	ホールアース自然学校 ☎0544-66-0152	
	ガイドと探検★トレッキ ングツアー	【時期】春(3~5月)、夏(6~8月)、 秋(9~11月)、冬(12~2月) 【所要時間】3~4時間 他では見えなかった世界! ゆったりと した気分で楽しむことができるトレッキ ングツアー	一般社団法人 山中湖観光協会 ☎0555-62-3100	
	富士山麓の里山と田園 のE-bikeサイクリング	【時期】春(3~5月)、夏(6~8月)、 秋(9~11月)、冬(12~2月) 【所要時間】約300分 雄大な富士山を背景に里山をのんび りEバイクでサイクリング世界遺産白 系の滝や酒蔵、歴史、地元の人々との ふれあいを楽しめます。	MT. FUJI SATOYAMA VACATION ☎0544-66-5722	
	山頂caféトレッキング	【時期】春(3~5月)、夏(6~8月)、 秋(9~11月)、冬(12~2月) 【所要時間】150分 山の新鮮な空気を浴びて、富士山の 絶景ポイントへ! 大自然の中で味わう挽きたてのコー ヒーを!!	TRAIL HIKES ☎090-1307-1982	
	吉田口登山道の1合目 から頂上を目指し、富士 山の自然・歴史・文化を まるごと体験します	【時期】夏(6~8月)、秋(9~11月) 【所要時間】2泊3日 グループでガイドを貸切・自分のペー スで楽しむ富士登山。富士山を麓から 登り切る、歴史ある巡礼登山ツアー	FYG Mountain Guides ☎080-2143-7676	

インタープリテーションメディア

	メディア・プログラム	概要 (営業時間・内容・費用など)	問い合わせ先	詳細は こちら
ガイド ツアー	富士山の森のお手入れ	【時期】春(3~5月)、夏(6~8月)、 秋(9~11月)、冬(12~2月) 【所要時間】約1.5~2時間程度 森を守るってどういうことだろう? 一年を通じて 富士山麓の森への愛着 も育てます	富士山アウトドア ミュージアム ☎ 0555-75-1958	
	青木ヶ原樹海、富士山が生んだいのちあふれる生まれたての森	【時期】春(3~5月)、夏(6~8月)、 秋(9~11月)、冬(12~2月) 【所要時間】2時間 富士山麓の溶岩台地に、再び植物が 戻り、今まさに生まれつつある森。溶岩 が作った洞窟や、様々な生き物の共生 関係で営まれる生態系など、学びに満 ちた森歩き。	株式会社フーディニ ☎ 03-6869-4212	
	奥庭トレッキング 富士山が生んだ奇跡の庭園	【時期】夏(6~8月)、秋(9~11月) 【所要時間】周回コース 90分 富士山斜面の噴火が生んだ奇跡の庭 園、天狗の遊び場とも言われる「奥 庭」。天然の造園美、富士山頂や南ア ルプスの眺望、高山植物、野鳥を満喫 するトレッキング。	株式会社フーディニ ☎ 03-6869-4212	
	ふじさんのごみひろい	【時期】春(3~5月)、夏(6~8月)、 秋(9~11月)、冬(12~2月) 【所要時間】約1.5~2時間程度	富士山アウトドア ミュージアム ☎ 0555-75-1958	
	地域貢献ボランティア活動と野外アクティビティツアー	【時期】夏(6~8月)、秋(9~11月) 【所要時間】180~360分(半日のみ可) 富士山麓での清掃活動などの地域貢 献・環境保全体験活動と、富士山の自 然環境を堪能できる野外アクティビ ティを丸一日満喫するエコツアープランです	認定特定非営利活動法 人富士山クラブ ☎ 0555-20-4600	

	メディア・プログラム	概要 (営業時間・内容・費用など)	問い合わせ先	詳細は こちら
ビ ジ タ ー セ ン タ ー ・ 学 習 施 設	環境省自然環境局 生物多様性センター	【営業時間】9:00～17:00 わが国の生物多様性の保全を積極 的に推進し、世界の生物多様性の保 全に貢献するための中核的拠点	環境省自然環境局 生物多様性センター ☎0555-72-6031	
	山梨県立 富士山世界遺産センター	【営業時間】9:00～17:00 (7、8 月8:30～18:00、12～2月9:00～ 16:30) 富士山のもつ多様な自然美を感じな がら、世界遺産の価値をわかりやすく 紹介する施設	山梨県立富士山 世界遺産センター ☎0555-72-0259	
	静岡県立 富士山世界遺産センター	【営業時間】9:00～17:00 (7、8月9:00～18:00) 世界遺産を「保護し、保存し、整備し 及び将来の世代へ伝えることを確保 する」拠点施設	静岡県富士山 世界遺産センター ☎0544-21-3776	
	西湖ネイチャーセンター	【営業時間】9:00～17:00 西湖コウモリ穴・クニマス展示館が併 設。コウモリの生態説明や、実際に洞 窟に入洞することができる施設	西湖ネイチャーセンター 管理事務所 ☎0555-82-3111	
	田貫湖ふれあい自然塾	【営業時間】9:30～16:30 『自然と人、人と人とのふれあい』に 重点を置き、専門のスタッフが皆様の 遊びと学びをお手伝い。スタッフとの ふれあいや自然解説展示、自然体験 プログラムが毎日楽しめる施設	環境省 田貫湖ふれあい自然塾 ☎0544-54-5410	
博 物 館	山梨県立 富士湧水の里水族館 森の中の水族館。	【営業時間】9:00～17:00 (7～ 9月～18:00) 【休館日】火曜 透明度の高い富士の湧水を使った日 本有数の淡水魚水族館	山梨県立 富士湧水の里水族館 ☎0555-20-5135	
	ふじさんミュージアム	【営業時間】9:00～17:00 【休館日】火曜 富士山の歴史や富士山の麓の町・富 士吉田市のことを観て、感じて、知るこ とができる施設	ふじさんミュージアム ☎0555-24-2411	
	富士吉田市立 富士山レーダードーム館	【営業時間】9:00～17:00 【休館日】火曜 富士山レーダーの歴史や気象観測に ついて楽しく学べる施設	富士山レーダードーム館 ☎0555-20-0223	
	河口湖フィールドセンター	【営業時間】9:00～17:00 【休館日】月曜 富士山剣丸尾溶岩流上にできた自 然林の中で、ガイドウォーク、クラフト、 デイキャンプなどの自然体験ができる 施設	河口湖フィールド センター ☎0555-72-4331	

インタープリテーションメディア

	メディア・プログラム	概要 (営業時間・内容・費用など)	問い合わせ先	詳細は こちら
道の駅・ドライブイン	森の駅 旭日丘店	【営業時間】 平日 10:00～17:00 土日祝 9:30～17:00 山中湖エリアに位置する観光拠点	森の駅 旭日丘店 ☎0555-62-4177	
	道の駅 富士吉田	【営業時間】 平日 9:00～17:00 土日祝 9:00～18:00 各施設営業時間異なる	道の駅 富士吉田 ☎0555-21-1033	
	道の駅 かつやま	【営業時間】 9:30～16:00 (時期により変化)	道の駅 かつやま ☎0555-72-5633	
	道の駅 なるさわ	【営業時間】 9:00 ～ 18:00	鳴沢村農業協同組合 ☎0555-85-3366	
	道の駅 朝霧高原	【営業時間】 【売店・アイス工房】8:00～17:00 【食堂】9:00～17:00(LO 16:00)	道の駅 朝霧高原 ☎0544-52-2230	
	朝霧高原 もちや	【営業時間】 9:00～18:00 4月～9月 18:00まで 10月～3月 16:30まで 広大な公園、レストラン、キャンプ施設を備えたドライブイン	朝霧高原もちや ☎0544-52-0202	

	メディア・プログラム	概要 (営業時間・内容・費用など)	問い合わせ先	詳細は こちら
観光案内所	山中湖村観光案内所	【営業時間】9:00～17:30 GW、お盆休み、年末年始等は特別営業時間になります。 休業日・休館日 年中無休	山中湖観光協会 ☎0555-62-3100	
	山中湖平野ツーリストインフォメーションセンター	【営業時間】9:30～17:30 (月、金、土は11:45～12:45閉館) モンベルのフレンドショップに加入	山中湖観光協会 ☎0555-62-3100	
	忍野村観光案内所	【営業時間】 平日 9:00～17:00 土日祝 9:00～16:00	忍野村観光協会 ☎0555-84-4222	
	富士吉田観光案内所	【営業時間】 9:00～17:00	富士吉田観光案内所 ☎0555-22-7000	
	下吉田観光案内所	【営業時間】 9:00～17:00 夏季10:00～18:00	—	
	富士河口湖観光総合案内所	【営業時間】 9:00～17:00	富士河口湖観光総合案内所 ☎0555-72-6700	
	西湖いやしの里 根場総合案内所	【営業時間】 9:00～17:00	西湖いやしの里 根場総合案内所 ☎0555-20-4677	
	白糸ノ滝観光案内所	【営業時間】 9:00～17:00	富士宮市観光協会 ☎0544-27-5240	
	富士宮駅前観光案内所	【営業時間】 平日:9:00～17:00 土日祝:10:00～16:00 (観光案内所のみ)	富士宮市観光協会 ☎0544-27-5240	

インタープリテーションメディア

	メディア・プログラム	概要 (営業時間・内容・費用など)	問い合わせ先	詳細は こちら
パン フ レ ッ ト・ ガ イ ド マ ッ プ	山中湖総合パンフレット	 山中湖のアクティビティや観光施設、歴史散策情報がわかる総合パンフレット	山中湖観光協会 ☎0555-62-3100	—
	忍野八海歩きマップ	 忍野八海の観光施設や食事情報がわかるマップ	忍野村観光協会 ☎0555-84-4222	
	富士吉田市総合ガイド めぐる・ぐるめふじよしだ	 富士吉田のグルメを中心に観光施設や観光情報が分かる冊子	ふじよしだ観光振興サービス ☎0555-21-1000	
	富士河口湖みどころガイド	 河口湖の主な観光施設6か所を中心としたガイドマップ	富士河口湖ふるさと振興財団 ☎0555-76-8282	
	鳴沢村総合パンフレット	 鳴沢村の自然、ビューポイント、観光施設が分かる総合パンフレット	鳴沢村企画課 ☎0555-85-2312	
	精進湖フットパス	 自然や文化を歩きながら楽しむ英国発祥の「フットパス」。精進湖のフットパスを紹介するマップ（一冊500円）	精進湖活性化協議会 ☎0555-72-1129	—
	富士宮観光ガイド	 富士宮の歴史から観光スポットまで、観光の概要を把握	富士宮市観光協会 ☎0544-27-5240	
	世界遺産 富士山～信仰の対象と芸術の源泉	 世界遺産に登録された富士山の構成資産や構成要素がわかるパンフレット	富士山世界文化遺産協議会 山梨事務局 ☎055-223-1330 静岡事務局 ☎054-221-3746	—

	メディア・プログラム	概要 (営業時間・内容・費用など)	問い合わせ先
ウェブメディア	富士五湖ぐるっとつながるガイド	https://www.mt-fuji.gr.jp/	富士五湖観光連盟 ☎0555-22-7102
	やまなしハイキングコース100選	https://yamanashi-hiking100.jp/	山梨県観光文化・スポーツ部観光資源課 ☎055-223-1576
	山中湖観光ガイド	https://lake-yamanakako.com/	山中湖観光協会 ☎0555-62-3100
	忍野村観光協会	https://oshino-navi.com/	忍野村観光協会 ☎0555-84-4222
	富士吉田市観光ガイド	https://fujiyoshida.net/	ふじよしだ観光振興サービス ☎0555-21-1000
	富士河口湖町観光情報サイト	https://fujiisan.ne.jp/	富士河口湖町観光連盟 ☎0555-28-5177
	富士河口湖観光チャンネル	https://www.fkchannel.jp/	富士河口湖ふるさと振興財団 ☎0555-76-8282
	なるさわ散策ガイド	https://www.narusawa-kanko.jp/	鳴沢村役場 ☎0555-85-2312
	西湖観光ナビ	https://saiko-kankou.jp/	西湖観光協会 ☎0555-82-3131
	精進湖観光情報サイト	https://shojiko-kanko.com/	精進湖観光協会 ☎0555-87-2651
	富士宮市観光協会	https://fujinomiya.gr.jp/	富士宮市観光協会 ☎0544-27-5240

インタープリテーション全体計画を こんな風につかっていきたい

地域の中（住む人、学校教育、観光事業者、行政）で広めて活用していく

- 全てのガイドに目を通してほしい
- 地元の観光事業者の研修でつかって欲しい（宿泊施設向け研修など）
- 働いているスタッフの教育（お客さんに魅力を伝えられるように）
- 地域の人がそもそも価値、魅力に気づいていない・忘れているかもしれないので、富士宮の広報誌や回覧板にも入れて、地域の人の巻き込み広げる
- 移住者の人に見て欲しい（役場とか、促進センター）
- 学校教育に活用したい
- 学校（小・中・高）に配って富士山周辺に興味を持ってもらいたい。（学校の教育旅行の事前学習）
- 地元の学校の総合学習でつかう。富士山の魅力発見！
- 行政とタイアップし、県・市町村がつくる観光パンフレットにこの要素を入れてもらう。観光課へ働きかけ。
- 東海自然歩道をこのエリアから盛り上げるのに活用したい。

富士山麓のお客様に伝えていく

- 富士登山者に読んでもらう。
- 宿泊施設や売店など観光客にも目に触れるようにしたい。
⇒観光施設や道の駅、飲食店などに配ってほしい
⇒バスや駅に置かせてもらう。静岡空港・静岡駅・新富士・河口湖など観光客が集まるハブに設置。
（配布ラックに置かせてもらう。多言語版。）
⇒うどん屋に飾れるような一ロメモ的ポップを作る。
- 1回来てくれた人に次回の遊び方として提示する。
- マスコミにも広げて欲しい。
- 英語版を作り「内閣府」から世界にPRする冊子に載せ、新富士駅等の観光案内所・ビューローにも置く。
- 外国人に対する禁止事項の告知とも連携して発信する。
- 案内板の設置。外国人用もあると良い。（英語、中国語）

周知・発信するためのツール

- 今回のWSに参加してない人達（事業者）に知ってもらう機会をつくる。⇒シンポジウムの開催など。
- 冊子の内容で、ガイドが富士山の魅力を話す出張イベントの開催（年に数回）
⇒2泊～3泊のスローハイクなど
- Web上にも公開する。YouTubeで再生できる形、ナレーション付き。
⇒SNSでシェアできるようにすると、広がる。
- インタープリテーション全体計画とリンクするマップがあると巡りやすい。
- 小さいエリアの地域版IP計画を作成する。
- このままではまずい!というような課題を書いた「ダークサイド版」の作成。

富士山麓にもっと詳しくなる 参考文献リスト

■ 富士山全般

タイトル	著者	発行年	出版社
富士山 大自然への道案内	小山真人	2013	株式会社岩波書店
日本一の火山富士山	荒牧重雄、太田美代	2008	山梨県環境科学研究所
富士山の大図鑑	富士学会監修	2013	株式会社PHP研究所
富士山境目図鑑	山梨県富士山科学研究所	2020	丸善出版株式会社
富士山のふしぎ 100	富士学会監修	2014	株式会社偕成社
富士山を知る辞典	富士学会企画	2012	株式会社紀伊国屋書店
富士山検定 公式テキスト	富士山検定協会	2006	スキージャーナル株式会社
富士山構成資産ガイドブック		2013	山梨日日新聞社
富士山の自然と砂防		2001	国土交通省富士砂防工事事務所
富士山学第1号	静岡県富士山世界遺産センター編	2021	株式会社雄山閣
富士山学第2号	静岡県富士山世界遺産センター編	2022	株式会社雄山閣
富士山学第3号	静岡県富士山世界遺産センター編	2023	株式会社雄山閣
富士山学第4号	静岡県富士山世界遺産センター編	2024	株式会社雄山閣
富士学研究 Vol20. No.1		2024	富士学会
富士山検定公式テキスト	富士山検定協会	2006	スキージャーナル
写真集富士山のすべて			株式会社ワタナベ
富士山	山下茂樹	2013	株式会社青菁社
ブラタモリ2富士山 東京駅 上田・沼田	NHK「ブラタモリ」制作班監修	2016	角川書店
ブラタモリ10富士の樹海 富士山麓 大阪 大阪城 知床	NHK「ブラタモリ」制作班監修	2017	角川書店

■ 富士山周辺の地図

タイトル	著者	発行年	出版社
山と高原地図34富士山		2024	昭文社
登山ハイキング41東海自然歩道Ⅰ			日地出版株式会社
登山ハイキング42東海自然歩道Ⅱ			日地出版株式会社
登山ハイキング43東海自然歩道Ⅲ			日地出版株式会社
絵地図富士山	村松昭	1999	株式会社時之栖
富士山火山地質図		2016	国立研究開発法人産業技術総合研究所地質調査総合センター

■ 富士山詳細 | 自然・植生

タイトル	著者	発行年	出版社
富士山の植物図鑑		2007	東京書籍株式会社
富士山自然ガイドブック 吉田口 五合目～御中道		2013	山梨県環境科学研究所
富士宮の歴史 自然環境編		2023	静岡県富士宮市

富士山麓にもっと詳しくなる 参考文献リスト

■ 富士山詳細 | 火山・地形地質

タイトル	著者	発行年	出版社
富士火山	日本火山学会	2011	日本火山学会
富士山噴火に備える	「科学」編集部	2023	岩波書店
別冊Newton富士山噴火と巨大カルデラ噴火		2014	株式会社ニュートンプレス
10万年の噴火史からひもとく富士山	曾布川善一	2024	山と溪谷社
もし富士山が噴火したら	鎌田浩毅、高世えり子	2012	東洋経済新報社
地震と火山と防災のはなし	楠城一嘉	2022	株式会社成山堂書店
富士山噴火	鎌田浩毅	2021	株式会社扶桑社
富士山噴火とハザードマップ 宝永噴火の16日間	小山真人	2009	古今書院
富士宮の火山洞窟	富士宮市立郷土資料館	1991	富士宮市教育委員会

■ 富士山詳細 | 文化・歴史

タイトル	著者	発行年	出版社
富士山 信仰と芸術の源		2009	株式会社小学館
富士山と日本人	遠山敦子	2024	静岡新聞社
富士山と御師料理	向後千里	2019	富士吉田市・女子栄養大学出版部
THE北斎	すみだ北斎美術館	2020	株式会社講談社
日本の風穴		2015	古今書院
現代語訳吾妻鏡7頼家と実朝		2009	株式会社吉川弘文館
富士に死す	新田次郎	1978	株式会社文藝春秋
怒る富士(上)	新田次郎	1980	株式会社文藝春秋
怒る富士(下)	新田次郎	1980	株式会社文藝春秋
NAGI風97号「浦々の郷土富士 浅間さんへ」		2024	月兎舎

■ トレイル関係

タイトル	著者	発行年	出版社
東海自然歩道全踏破	斉藤政喜	2001	株式会社小学館
ニッポン10大トレイル	シェルパ斉藤	2019	株式会社柊出版社
東海自然歩道旅ある記	安藤創造	2015	武蔵野デジタル出版株式会社
東海自然歩道ウォークガイド	財団法人日本万歩クラブ	1994	株式会社学習研究社
人生最高の旅東海自然歩道 1600キロ完歩	鶴岡道夫	2024	つむぎ書房
東海自然歩道30選 関東編	塚本義次	2000	七賢出版株式会社
東海自然歩道 東海版	宇佐美イワオ	1999	風媒社
富士山さんぽ	鈴木渉	2014	株式会社ポプラ社
富士下山ガイド	岩崎仁	2024	静岡新聞社
国立公園No.824「可能性に満ち たロングトレイル」		2024	一般財団法人 自然公園財団
地域人55号「ロングトレイル」		2020	大正大学出版会
TRAILHEAD「ロングトレイル④」		2024	株式会社三榮

■ 国立公園関係

タイトル	著者	発行年	出版社
国立公園No.828「指定90年を 迎えた国立公園」		2024	一般財団法人 自然公園財団
FRAU「ニッポンの国立公園」		2022	株式会社講談社
美しい世界の国立公園		2014	日経ナショナルジオグラフィック社
国立公園を旅する		2020	NHK出版
富士箱根伊豆国立公園パークガ イド箱根		2003	一般財団法人 自然公園財団
日本の国立公園まるわかり辞典		2015	株式会社PHP研究所

インタープリテーション全体計画の 作成に関わった方々

ガイド・アウトドア事業

- NPO法人ホールアース自然学校
- 一般社団法人エコロジック
- 静岡富士山ガイド協会
- 富士の国やまなし通訳案内士会
- 富士吉田案内人組合
- 富士山国際ノルデック協会
- 一般社団法人マウントフジトレイルクラブ
- フジヤマトレックツアー
- thousandth
- 株式会社SDP、有限会社スポーツトレイン
- MOTOSUKO DIVE RESORT
- FUJI SUNRISE
- 合同会社ルーツ&フルーツ「富士山ネイチャーアース」
- Avec le mont

環境保全・地域振興

- 石割山遊び隊
- 富士山クラブ
- 企業組合みのぶ地域振興Link300
- NPO法人富士トレイルランナーズ倶楽部
- 認定NPO法人みちのくトレイルクラブ

行政

- 環境省自然環境局国立公園課国立公園利用推進室
- 環境省富士箱根伊豆国立公園管理事務所
- 環境省沼津管理官事務所
- 山梨県富士山レンジャー
- 富士河口湖町役場観光課

作成事務局

- 環境省富士五湖管理官事務所
- 日本工営株式会社・日本工営都市空間株式会社
- NPO法人ホールアース自然学校
- 一般社団法人日本インタープリテーション協会
- 公益社団法人日本環境教育フォーラム
- グローブグラフィック(イラストデザイン)

飲食

- 朝霧高原あおぞらピッツァ

宿泊

- 浩庵
- 株式会社 ペンションモトス
- 田貫湖キャンプ場

観光施設

- 山梨県立富士山世界遺産センター
- 朝霧ハイランド株式会社
- 田貫湖ふれあい自然塾
- 富士山麓ジビエ
- ミルクランド株式会社
- 株式会社アミューズ

観光協会

- 本栖湖西部観光協会
- 芦川町観光協会

研修施設・人材育成

- 株式会社富士山フューチャーセンター
- 一般財団法人人材開発センター富士研修所

学術・研究機関

- 富士山科学研究所
- NPO法人オープンコンシェルジュ
- 筑波大学
- 東京大学

体験会にて



『富士山麓を「歩く旅」をもっと楽しむSTORY』は、フルバージョン・ハンドブック版をウェブサイトで公開しています。右記ウェブサイトの「取り組み事例」より、ご覧ください。周囲の方へもぜひご案内ください。



National
Parks
of Japan



発行元：富士箱根伊豆国立公園管理事務所
問合せ先：富士五湖管理官事務所（0555-72-0353）